

## 設置の趣旨等を記載した書類

### ア. 設置の趣旨及び必要性

#### 1. 北海道医療大学の沿革

北海道医療大学は、1974年4月に薬学部（薬学科・衛生薬学科）を開設して以来、1978年には歯学部（歯学科）を、1993年4月には看護福祉学部（看護学科・臨床福祉学科）を、2002年4月には心理科学部（臨床心理学科・言語聴覚療法学科）を開設し、2013年4月からはリハビリテーション科学部を新たにスタートさせる。また、既設の四つの学部には研究科を設置し、修士課程および博士課程において大学院教育を行っている。さらにこの間、アイソトープ研究センター（1982年設置）、動物実験センター（1988年）、医療科学センター（1990年、のちに個性差医療科学センター）、医科学研究センター（1994年、のちに個性差健康科学研究所）、NICEセンター（2000年、National and International Collaborative Extension Center）、大学教育開発センター（2007年）、北方系伝統薬物研究センター（2009年）という重要な研究拠点機能を有するセンターを開設し、諸分野での研究・教育のための共同利用や情報提供、セミナーの開催などが行われてきた。また学術と社会貢献を融合するという大学としての社会的役割から、心理臨床・発達支援センター（2003年）、認定看護師研修センター（2005年）、および薬剤師支援センター（2010年）を設置し、医療にかかわる広い分野の人材を育成してきた。これらの活動が評価され、日経グローバルが毎年行っている地域貢献度ランキング医歯薬系大学部門において、2007年～2009年の3年間は第1位、2010年は第2位、2011年は第5位と例年高い評価を得ている。

このように開学以来の38年間、本学は常に新しい社会のニーズを先取りして人材育成に取り組んできており、北海道に限らず日本全国に向けて人間力と臨床力のある高度な知識と技術を有する人材を送り続け、現在に至っている。

#### 2. 大学院リハビリテーション科学研究科設置の趣旨及び必要性

##### 1) 設置の趣旨

我が国の高齢化の速度は極めて急速に進展している。このような超高齢化社会への急激な進行は世界でも類がなく、このため国際社会においても手本となるようなモデル国がない。すなわち、産業とくらし、医療と福祉を含む社会的資源の活用については、まさに我が国のみならず国際的にも緊急の課題である。とりわけ高齢化率の上昇は、疾病構造において慢性疾患中心型へとシフトし、社会的資源の運用においては高齢者を中心とする要介護者の大幅な増加へとシフトすることが予測される。

世界の人口構成が先進諸国を中心に高齢社会へと進展している中、保健・医療・福祉の分野における科学的根拠を国際社会に発信し、国際社会の発展に貢献し、さらに国際競争力を確保していくことが高等教育機関、特に大学院教育に求められている。

以上の背景を踏まえて、本学はリハビリテーション分野における高度専門職業人及び教育者・研究者の育成を目的に大学院修士課程を設置する。

なお、本学は2013年4月からリハビリテーション科学部を設置するが、他大学の卒業生を対象としてこの度、大学院を同時に設置することとしたものである。また、入学定員は5名を予定しているが、これは、本研究科の研究分野が9分野であり、隔年で1分野1名の研究指導を

見込んでいることから設定したものである。

## 2) 設置の必要性

医学・医療に対する社会的ニーズは、かつては救命および疾病の治療であったが、死生観や価値観、健康観の変化により、人が健康で幸福な生涯を送るためのサポートを含むトータルケアへと変化している。すなわち疾病予防（1次予防）から救命、疾病の進展抑制（2次予防）、疾病の再発予防（3次予防）を一貫して考え、合わせて対象者の人生の質（QOL）をいかに高めていくかといった介入が今日の保健・医療・福祉に求められており、それら全てのプロセスにわたりリハビリテーションの視点を適用することが極めて重要となってきた。そのためには、リハビリテーション分野における新しい技術開発、実践方法の探求と応用など、学際的連携を図りながら将来のリハビリテーション科学の発展に寄与することができる研究者・教育者の育成が求められている。学部教育においては、人間形成および基礎専門教育の修得に基盤をおいている。そのため、より高度な学識と研究能力および教育能力を有する人材の育成には大学院教育が必要である。

### (1) 地域的観点から

北海道は、道庁所在地である札幌市に北海道内の医療機関の35%が集中し、本学をはじめ北海道大学や札幌医科大学などの高度医療機関が集中している。そのため、リハビリテーション分野においても医学・医療の発展および社会的ニーズの変化や医療の場の多様化に伴い、それぞれの役割や特定の専門性を重視した医療のあり方が求められる。

一方、道北や道東、道南などの人口過疎地域における医療展開においては、リハビリテーションスタッフは質の高さのみでなく、安全で効率性の高いリハビリテーションサービスを提供することが求められている。特に医師や看護師らとともにを行う地域医療においては、高度な問題解決能力および倫理観、哲学、人に対する洞察力が求められ、チームマネジメントにも優れた能力を有するリハビリテーションスタッフが求められる。

北海道での都市型リハビリテーション科学の展開、高度医療研究機関における高度専門技術の適用と開発、地域での有効かつ効率的な介入法の開発と実践など、北海道での様々なレベルでのエビデンスの発信は我が国全体、ひいては国際社会における適用の可能性を探索するとともに、質の高いリハビリテーションの高度専門職業人育成に連結していくものと思われる。

このように高度な専門知識や技術、実践能力を持つ人材が強く求められ、さらにそれらリハビリテーションの介入効果を実践的かつ科学的に検証し、理学療法および作業療法介入のより有効な方法論を科学的に確立することが求められている。そのための基礎研究や臨床研究を行うことのできるリハビリテーション科学分野での研究者育成が急務である。

### (2) 国際的観点から

我が国の理学療法・作業療法教育において、およそ半世紀前に米国の教育者により3年制養成課程が開始されて以来、実践的な臨床家の育成に主眼が置かれていたが、近年は大学教育による4年制課程へとシフトしてきている。

北海道医療大学は、「保健と医療と福祉の連携・統合教育の推進」を教育理念とし、「新医療人育成の北の拠点を目指す」ことを行動目標として、薬剤師、歯科医師、保健師、看護師、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士、言語聴覚士、臨床心理士などの保健・医療・福祉分野における専門職種を養成してきた。さらに、すべての学部には研究科を設置し、保健・医療・福祉分野の高度化に対応しうる高度専門職業人の養成に取り組んできた。その上で、疫学的解釈や疾病構造の変化およびその対応について地球的規模で考える事が必要となっている。それは、医療レベルや医療人としての高度な専門知識、能力開発などの面で国際的に議論可能なレベルを確保することが求められているからである。欧米では理学療法士・

作業療法士の教育はすでに大学院教育が標準となっており、我が国においても人間性への深い洞察力と医学・医療を取り巻く環境変化に迅速に対応できる幅広い専門知識を持ち、質の高いリハビリテーションサービスを提供しうる高度専門職業人を大学院教育の中で養成することが強く求められている。

また近年、リハビリテーションスタッフ養成の大学が急増しているが、今後、グローバルに情報交換や情報発信を行い、その中で高度な専門的知識・能力・技術を開発および評価することのできる研究者の育成が求められており、質の高い理学療法教育・作業療法教育を実践的に教授する教育者の養成も我が国において急務の課題である。

### 3. 養成する人材像

本研究科の教育理念のもと、次のような人材養成を目指す。

#### 1) 教育理念

先進的な専門知識と技術をもって質の高いリハビリテーションサービスを提供できる高度専門職業人ならびに保健・医療・福祉現場や高等教育機関において指導的役割を担う人材を養成することにより、国民の保健医療福祉の要請に応え、地域社会ならびに人類の幸福に貢献することをリハビリテーション科学研究科の教育理念とする。

#### 2) どのような人材を養成するか

- (1) 高度化、多様化が進む現代の保健・医療・福祉の現場において、先進的な専門知識と技術をもって質の高いリハビリテーションサービスを提供できる高度専門職業人を養成する。
- (2) リハビリテーション領域に関わる最先端の研究を通して創造力・企画力・応用力を涵養し、保健・医療・福祉の現場や高等教育機関において指導的役割を担う人材を養成する。

#### 3) 学生にどのような能力を修得させるか等の教育研究上の目的

- (1) リハビリテーション専門職として、実際の保健・医療・福祉現場で求められる「課題解決能力」や「マネジメント能力」に加え、臨床研究を遂行する上で必要となる「臨床データを蓄積する能力」「病態を解析する能力」「結果を公表する能力（プレゼンテーション能力・論文作成能力）」等を身につけさせる。
- (2) 学部教育で修得した解剖学、生理学、運動学などの医科学系知識をさらに深めて、臨床実践能力の科学的基盤を強化させる。
- (3) クライアント個人の抱える社会的、家族的諸問題など様々なレベルの問題の障害像を個別化・細分化し、医学、心理、社会学等の観点から問題を把握し、対応できる能力を身につけさせる。また、これらの諸問題をチームとして共有し、多職種との適切な連携を図るためのコミュニケーション能力や組織をマネジメントする能力を育成する。
- (4) 薬学・歯学・看護福祉学・心理科学系の関連分野と連携した学際性のある教育研究体制を構築するため、講義や研究指導において他研究科の教員も指導にあたる。
- (5) 社会人学生に対しては、指導教員と密に連絡をとりながら、e-ラーニング、サテライトキャンパスでの講義、インテンシブ授業、長期履修制度などを取り入れ、学習の利便性に配慮する。

### 4. 修了後の進路

本研究科の修了者については次のような進路が考えられる。

- (1) 医療機関、社会福祉、および医療福祉中間施設等において職場の指導的役割を担う高度な専門性をもつリハビリテーション専門職として勤務する。

- (2) 大学、短期大学、専門学校等のリハビリテーション専門職養成校等において教育者として勤務する。
- (3) 保健所などの行政機関の専門職として勤務する。
- (4) 大学、大学院等における研究者になるために、大学院博士課程に進学する。

## 5. 学生確保の見通し

### 1) 日本の理学療法士・作業療法士の養成および教育課程の現況と課題

近年、リハビリテーションに対する社会的ニーズの高まりから、理学療法士・作業療法士養成教育機関は全国的に増加し、2012年現在、理学療法士と作業療法士の養成施設数は、それぞれ251校と179校にのぼる。年間に輩出される有資格者は10,000人を超え、総数はそれぞれ、理学療法士100,560名、作業療法士64,856名であり、理学療法士数はいまやリハビリテーション領域の先進国である米国を抜き世界第1位、作業療法士数は第2位となった。

一方、米国をはじめとするリハビリテーション領域先進諸国は、理学療法士、作業療法士の養成課程を大学院教育に移行させているのに対して、我が国はようやく学士課程が養成基準と位置付けられる段階にある。

我が国では永らく理学療法士・作業療法士の存在が希少価値であった時代から、高齢社会移行段階における量的拡大の時期を経て、担い手の質の向上が求められる時代へと変遷してきている。すなわち、科学的根拠に基づいた治療計画を策定し、治療効果を評価する高度な能力を有する人材を大学院において養成することが求められている。

### 2) 職能団体による理学療法士、作業療法士の生涯教育制度と大学院の連携

職能団体である日本理学療法士協会（2012年現在の会員数77,844名、組織率77.4%）は、2009年より専門理学療法士制度を開始した。同様に、日本作業療法士協会（2012年現在の会員数44,587名、組織率68.7%）も、2010年より専門作業療法士制度を開始した。本制度は、各協会員の専門性を高め、クライアントに質の高いリハビリテーションサービスを提供できるようにするとともに、学問的発展に寄与できる研究能力を高めることを目的とした生涯学習制度の一つとして位置づけられている。専門理学療法士および専門作業療法士の称号は、各協会が作成した養成教育プログラムを履修し、所定の単位（ポイント）を取得することで付与される。この養成教育プログラムにおいて、日本理学療法士協会は、専門領域に関連する分野の大学院修了を履修ポイントの読み替えとして認めている。同様に日本作業療法士協会も、研修内容の質の担保や講師の充足、各地域における安定した受講機会の提供を図る目的で、本制度における大学院との連携の必要性を掲げており、2012年度から大学院講義等の受講振替を運用するための準備を進めている。

これら各協会が推進する生涯学習制度の観点においても大学院教育課程に対するニーズは明らかに高く、本学の計画は、時宜に適っていると見える。

### 3) 他大学における大学院設置の現状と本学に設置する理由

現在、理学療法学・作業療法学の大学院修士課程設置の大学は、全国に50校（国立13校、公立9校、私立28校）ある。このうち、北海道内においては北海道大学と札幌医科大学の2大学に留まり、北海道大学は、保健科学専攻（リハビリテーション科学以外の研究領域も含む）で26名、札幌医科大学は、理学療法・作業療法学専攻で12名の募集人数である。2012年現在の北海道内の各療法士数が、理学療法士4,929名（北海道内の協会員数と組織率より推定）、作業療法士3,164名（北海道内の協会員数と組織率より推定）であることを踏まえると、いずれも大学院に進学したくても進学できる人数は限られていて、十分な供給体制には至

っていない実情にあるといえる。

#### 4) アンケートおよびインタビュー調査による北海道内の大学院進学需要

本学が北海道内における理学療法士・作業療法士が在籍する医療機関を対象に、2011年に実施した大学院進学需要に関するアンケート調査結果（839施設中275施設からの回答）によれば、大学院進学を検討している理学療法士・作業療法士が「いる」と回答した施設は17施設（6.2%）、「いない」と回答した施設は135施設（49.1%）、「分からない」と回答した施設は123施設（44.7%）であった。

一方、北海道内の理学療法士・作業療法士を対象に、大学院進学に関する自由意見を聴取した結果では、臨床現場で抱える諸課題を解決するために、高度な専門知識と技術を身につけられる大学院に対する関心は非常に高かった。しかし、有職者が大学院進学をめざすには、多くの場合、在職のまま就学せざるを得ないため、夜間や土日開講等の社会人学生に対する大学側の配慮が不十分な状況においては難しいとの意見も少なからずあった。

以上から潜在的な大学院進学需要は、別添資料に示す通り相当数見込まれ、現職の理学療法士・作業療法士が離職せずに就学できる学習環境を大学側が整備することによって、学生確保は十分可能と考えられる。

（資料1）北海道医療大学新学部ニーズ調査報告書（抜粋） 大学院進学需要調査について

#### イ. 修士課程までの構想か、又は、博士課程の設置を目指した構想か

本研究科は、将来的に博士課程の設置を目指す計画である。高度化、多様化が益々進展している保健・医療・福祉の現場に 대응するために、先進的な知識と技術をもち、質の高いリハビリテーションサービスを提供できる高度な臨床実践者はもとより、その学問的基盤をなすリハビリテーション科学の発展に貢献できる研究者・教育者の養成も必要不可欠である。我が国のリハビリテーション科学分野における研究者・教育者の供給体制は未だ十分に整備されておらず、学問の発展に貢献し得る人材は不足している。このことから、本研究科においては、博士課程を将来的に設置することを視野に入れ、我が国のリハビリテーション科学の発展と、次世代の高度なリハビリテーション専門職の養成を担う有為な人材の輩出を目指していく。

なお、本計画は、学部設置と同時に大学院を設置しようとするものであるが、本学リハビリテーション科学部一期生が卒業する2017年までに大学院応募状況を勘案したうえで修士課程の定員の在り方を検討する予定である。

#### ウ. 研究科、専攻等の名称及び学位の名称

本修士課程は、リハビリテーション科学を基盤としてリハビリテーション領域にかかわる高度専門職業人の養成を基本とすることから、研究科、専攻、学位の名称ならびに英語表記は次のとおりとする。

|     |   |
|-----|---|
| 研究科 | リハビリテーション科学研究科<br>Graduate School of Rehabilitation Sciences    |
| 専攻  | リハビリテーション科学専攻 修士課程<br>Studies in Rehabilitation Sciences        |
| 学位  | 修士（リハビリテーション科学）<br>Master of Science in Rehabilitation Sciences |

## エ. 教育課程の編成の考え方及び特色

### 1. 教育課程編成の基本的な考え方

本研究科は、保健・医療・福祉の各分野において、先進的な専門知識と技術をもって質の高いリハビリテーションサービスを提供でき、なおかつ指導的役割を担っていく高度専門職業人を養成することを目的に、次の基本的な考え方に基づいて、教育課程を編成する。

授業科目は共通科目、専門科目、隣接科目、及び研究指導から構成される。共通科目では、リハビリテーション領域における高度専門職業人として求められる管理・指導能力や研究遂行能力を培うための基盤となる講義科目を配置する。専門科目では、リハビリテーション領域の各専門分野における最新の知識・技術を学び、臨床実践能力を高めるための講義および演習科目を配置する。隣接科目では、各専門分野の臨床および研究を遂行するうえで必要な関連学問領域に関する講義科目を配置する。研究指導では、リハビリテーション科学における各専門分野の課題を追求し、その成果を修士論文にまとめる。

### 2. 教育課程編成の特色

- (1) 共通科目を設定し、臨床現場における管理・指導能力の育成を図るうえで必要な教育法と経営学を含む管理学、及び研究法と統計学に関する科目を必修とする。研究法は、研究計画立案と一般的な研究手法を複数科目に細分化し、詳細に学修できるよう設定する。「リハビリテーション管理学特論」では、リハビリテーション部門における組織作りや管理・運営について教授するとともに、多職種あるいは部門間の有機的・効果的な連携・協働について学び、臨床現場における組織をマネジメントする能力を育成する。なお、授業では臨床現場でのマネジメントに関する実際例（匿名化した事例）を提示しながら、より具体的な実践力を養うことができるよう指導する。
- (2) 隣接科目を設定し、学際領域としてのリハビリテーション科学における臨床ならびに研究実践に対応するうえで必要な医科学系、心理学系、社会福祉学系の学問領域を学ぶ。
- (3) これら共通科目及び隣接科目の履修によって基礎的素養の涵養を図る。
- (4) 更に、臨床現場で要求される高度な専門的知識・技術の修得、すなわち高度専門職として必須の臨床実践ならびに研究遂行能力の基礎を身につけるために、専門科目およびリハビリテーション科学研究を設定する。専門科目は、各障害に対するリハビリテーション学分野の最新知識・技術や、近年のリハビリテーションにおいて重要な領域の一つである障害者・高齢者等の地域生活支援に関して学ぶ科目を設定し、各自の研究課題に応じて履修するよう指導する。
- (5) 専門科目では、講義や国内外の文献レビュー等により先進的なリハビリテーション技術を学ぶ。さらに、学生が社会人の場合は、在職医療機関等における臨床実践をもとに、一般学生の場合は、連携医療機関等における臨床実践を基に、それぞれの事例検討を通じて、科

学的根拠に基づきリハビリテーション介入を展開できる臨床実践能力を涵養していく。なお、本学は、平成26年4月に向けて本学附属病院内にリハビリテーション室を開設予定である。この施設が完成すると学生の臨床実践の場が拡大するので積極的に活用していく。

- (6) 専門科目およびリハビリテーション科学研究法では、本学が有する優れた解剖学や生理学をはじめとする基礎医学研究設備、3次元動作解析システムなどの最新の運動・動作計測機器、バリアフリーラボといった先進的な教育研究設備を十分に活用して学ぶことにより、科学的視点を実践的に修得できるようにする。

### 3. 教育課程の枠組み

#### 1) 共通科目

必修科目：リハビリテーション教育特論、リハビリテーション管理学特論、リハビリテーション研究法特論Ⅰ（研究計画）、リハビリテーション研究法特論Ⅱ（量的研究）、リハビリテーション研究法特論Ⅲ（質的研究&事例研究）、保健医療統計学特論の6科目  
選択科目：医療英語特論、医療経済学特論、生命科学特論、精神保健学特論、神経科学特論の5科目

#### 2) 専門科目

生体構造機能・病態解析学分野、リハビリテーション治療学分野、地域健康生活支援学分野の3つの専門分野で構成する。各専門分野は、さらにいくつかの領域に細分され、領域ごとに特論と演習の授業科目を設ける。学生は、指導教授と相談のうえ、専攻する専門分野・領域の特論・演習（4単位）を必ず履修することとする。

##### (1) 生体構造機能・病態解析学分野

選択科目：解剖学特論、解剖学演習、身体運動科学特論、身体運動科学演習、運動・動作解析学特論、運動・動作解析学演習の6科目

##### (2) リハビリテーション治療学分野

選択科目：内部障害リハビリテーション学特論、内部障害リハビリテーション学演習、運動障害リハビリテーション学特論、運動障害リハビリテーション学演習、発達障害リハビリテーション学特論、発達障害リハビリテーション学演習、精神障害リハビリテーション学特論、精神障害リハビリテーション学演習の8科目

##### (3) 地域健康生活支援学分野

選択科目：作業行動学特論、作業行動学特論演習、地域リハビリテーション学特論、地域リハビリテーション学特論演習の4科目

#### 3) 隣接科目

医学系、心理学系、社会福祉学系の3つの関連学問領域から授業科目を設ける。

選択科目：公衆衛生調査法、遺伝医学・医療論、心身医学特論、ヘルスプロモーション論、音楽療法特論、障害福祉学特論、高齢者福祉学特論の7科目

#### 4) 研究指導

リハビリテーション科学領域において、課題設定、研究計画の立案、データの収集と分析、成果の公表に至る一連の研究過程を、修士論文の作成を通して身につける。

必修科目：リハビリテーション科学研究の1科目

(資料2) リハビリテーション科学研究科修士課程カリキュラム表・担当教員・履修モデル

#### 4. 教育研究の柱となる分野

本研究科では、本学リハビリテーション科学部理学療法学科ならびに作業療法学科の教育課程や教育組織の教育・研究体制を基盤とし、以下の3分野を教育研究の柱とする。

##### 1) 生体構造機能・病態解析学分野

理学療法や作業療法をはじめとするリハビリテーションの科学的基盤となる分野であり、ヒトの正常な生体構造・機能や各種疾患に起因する生体構造・機能の変化とそのメカニズムを主な研究テーマとする。本分野には、解剖学、身体運動科学、運動・動作解析学の専門領域を置いて、リハビリテーションの科学的基盤となる医科学に関する最新知見を学習し、修得した専門知識と技術を活用しながら臨床課題を解決できる人材を育成する。

##### 2) リハビリテーション治療学分野

各種障害に対するリハビリテーションの治療介入を主な研究テーマとする。本分野には、内部障害リハビリテーション、運動障害リハビリテーション、発達障害リハビリテーション、精神障害リハビリテーションの専門領域を設け、各種障害に対するリハビリテーションの最新知見をもとに学習し、臨床現場において適切な障害評価と原因を追求できる、さらには科学的根拠に基づいたリハビリテーション治療介入を展開できる人材を育成する。

##### 3) 地域健康生活支援学分野

地域社会において障害（児）者や高齢者が健康で主体的な生活を営んでいくための支援策を主な研究テーマとする。本分野には、作業行動学と地域生活支援学の領域を置いて、障害（児）者の日常生活活動への支援や高齢者の健康増進への取り組み等について学習し、医療のみならず保健や福祉の現場で対象者の生活を支援できる人材を養成する。

#### オ. 教員組織の編成の考え方及び特色

本研究科の基礎となるリハビリテーション科学部は、専任教員を学科の別にとらわれずその専門性を生かして「生体機能・病態解析系」「リハビリテーション治療学系」「地域健康生活支援系」の3系統に区分し、リハビリテーション科学の発展を推進させる教育・研究体制を整備している。また、学際領域としてのリハビリテーション科学を発展させるために、本学の関連諸学問分野（医学・歯学・薬学・看護学・臨床福祉学・臨床心理学）の教員との有機的な連携を図って教育・研究を行う。

本研究科の教員組織は、主にリハビリテーション科学部の専任教員で構成する。共通科目および専門科目の授業科目担当の主たる教員は、当該分野において十分な教育研究業績を有する者とする。共通科目と専門科目の一部については、当該分野を専門とする学外の教育研究者または臨床実践者を非常勤講師として配置する。隣接科目の授業科目担当教員は、本学の既設研究科で当該分野の高度専門職業人養成の十分な実績を有する薬学・歯学・看護学・臨床福祉学・臨床心理科学各研究科の専任教員を兼任教員として積極的に活用する。「リハビリテーション科学研究」の研究指導を担当する主たる教員として、リハビリテーション科学分野で十分な研究業績を有する教員をあてる。

本研究科の専任教員組織は完成時で、教授11名（うち研究指導8名、同補助3名）、准教授1名（研究指導）、講師2名（うち研究指導1名、同補助1名）、助教1名（研究指導補助）の合計15名（うち研究指導10名、同補助5名）をもって編成する。年齢構成は、70歳代1名、



60 歳代 1 名、50 歳代 3 名、40 歳代 6 名、30 歳代 4 名であり、年齢構成に特に大きな偏りはなく、適正に配置されている。専任教員組織の中に若手教員が含まれていることについては、若手教員自身の教育研究の活性化を図るとともに、当該研究科の教育研究水準を将来にわたり継続的に維持・向上させることをねらいとしている。

## カ. 教育方法、履修指導、研究指導の方法及び修了要件について

### 1. 教育方法

授業期間は、試験等の期間を含めて 35 週にわたることを原則とし、2 学期制とする。授業科目は、講義、演習、実験・実習のいずれかの形態をとり、授業の方法に応じ、教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の基準によって科目の単位数を計算する。

① 講義及び演習については、15 時間ないし 30 時間をもって 1 単位とする。

② 実験、実習及び実技については、30 時間ないし 45 時間をもって 1 単位とする。

本研究科において授業科目は、原則として当別キャンパスで実施するが、社会人学生の就業状況と通学の利便性等を考慮して、授業の一部を札幌サテライトキャンパスにて実施する。また、遠隔地の社会人学生への配慮として、テレビ会議システムを利用した授業配信を一部の授業科目で導入する。

履修した授業科目の単位の認定は、筆記もしくは口頭試験又は研究報告によるものとする。成績評価は、優・良・可・不可の 4 段階評価とし、優・良・可を合格として単位を与え、不可は不合格とする。

(資料 3) リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻 時間割

### 2. 履修指導

大学院生には入学時に大学院履修要項を配布し、教務担当者がそれに基づいて入学時ガイダンスを実施する。入学時ガイダンスでは、科目の履修方法や単位修得方法、修士学位取得までのプロセス、教育・研究設備の利用方法等について説明し、早期に大学院生活に順応できるよう配慮する。

大学院生の個別履修指導は、専攻する研究分野の研究指導教員によって適宜行われる。なお、大学院生が専攻する研究分野・領域と研究指導教員は、各々の大学院生の研究テーマを考慮して入学時に決定される。

科目の履修は、共通科目から必修指定科目 12 単位、専門科目から専攻する領域の特論・演習 4 単位、研究指導 8 単位の合計 24 単位を必修として履修し、さらに共通科目、専門科目、隣接科目の中から 6 単位以上選択履修（但し、専門科目における演習は、同一科目名の特論の履修を条件とする）して、あわせて 30 単位以上を修得する。

科目履修指導の基本方針は、修士論文を作成するうえで重要となる共通科目の必修科目と専攻する分野の専門科目を出来るだけ 1 年次に履修させて、論文作成に向けて適切に学習が進められるよう配慮する。

本研究科では、職業を有している、または育児、長期の介護等の事情により、修業年限（2 年）での教育課程の履修が困難な者を対象として、修業年限を超えて（3 年または 4 年）計画的に科目を履修し必要単位を修得する長期履修制度を設ける。なお、長期履修制度を希望する場合は、入学後、所定の期日までに申請書を提出し、研究科委員会の決議を経て、承認を受けるものとする。長期履修学生の履修指導については、入学時に決定された専攻研究分野の研究指導教員とともに、無理なく学習できるよう履修計画を立案し、定期的に履修状況を確認しな

がら指導を行っていく。

(資料4)「長期履修制度」について

### 3. 研究指導

各大学院生の専攻する研究領域および研究指導教員は、受験時に提出された志望研究領域、研究課題とその計画概要に基づき、入学時に決定される。研究領域および研究指導教員が決定されたのちに変更を希望する場合には、当初の研究領域の研究指導教員ならびに変更を希望する研究指導教員と協議を行い、合意が得られた場合にのみ変更を認めることとする。

研究指導教員は、1年次前期より研究指導を始めて、学生に研究構想の準備を行わせる。1年次後期には、11月に研究テーマおよび研究計画の中間発表に位置づけられる研究構想発表会と2月に修士論文研究計画書の提出とその審査会を実施する。また、研究倫理審査が必要な研究については、研究倫理審査委員会に随時申請する。2年次においては、承認された修士論文研究計画書に基づいて研究指導教員のもと、研究が開始される。8月には中間報告会を実施し、研究の進捗状況を確認するとともに、研究指導教員以外の教員からも論文作成に向けて適切な助言・指導を受ける。その後、補足データの収集や解析等を適宜行ないながら、論文作成を進めていく。論文提出は1月とし、2月に学位論文審査会を実施する。3月には最終成果を公開最終発表会で発表する。

### 4. 修士論文研究計画書ならびに学位論文の審査体制

#### 1) 修士論文研究計画書の審査

研究目的の適切性、研究の実現可能性等の観点から行われる。修士論文計画書は、所定の期日までに研究指導教員の承認を得たうえで、研究科委員会に提出する。提出された修士論文計画書は研究科委員全員が回覧したのち、研究科委員会で審議される。審査結果は研究指導教員より学生に通知される。

#### 2) 学位論文の審査

本学の学位規程および本研究科の学位規程施行細則に従って行われる。提出された修士論文は、研究科委員全員が回覧したのち、研究科委員会にて審査委員（主査1名と副査2名）を選出する。審査委員のうち主査については、透明性・公平性を確保するため、原則として当該学生の研究指導教員以外の者を選出する。副査1名については、学内に適切な教員がない場合、研究科委員会において審査のために必要であると認められた場合、学外の専門家に委嘱することができる。選出された審査委員は、審査委員会を開催する。審査委員会では、論文内容および研究分野に関連する知識を審査する。論文審査委員は論文の審査結果を報告書にまとめ、研究科委員会に提出する。最終的な修士論文審査判定は、研究科委員会にて構成員の4分の3以上の出席のもとに開かれる修士論文審査判定会議のなかで審議され、出席者の3分の2以上の承認を得た場合に学位が授与される。

### 5. 倫理審査体制

研究にかかわる倫理審査体制については、「研究倫理指針」を策定し、本研究科倫理委員会において審査を行う。また、全学的な規程として「動物実験規程」、「組換えDNA実験安全管理規程」、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究計画及び実施に関する倫理規程」等が整備されており、これら諸規程に該当する実験計画等については、それぞれの倫理委員会において倫理性・安全性等に関する審査を行う。

## 6. 学位論文の公表方法

学位が認定された修士論文は1部を本学図書館に保存し、広く一般の閲覧に供されることをもって公表とする。

## 7. 修了要件

修了要件は、本研究科に2年以上在学し、所定の授業科目について30単位以上を修得し、かつ修士論文を提出し、その審査及び最終試験に合格した者とする。

(資料5) 入学から修了までのスケジュール

(資料6) 北海道医療大学リハビリテーション科学部・リハビリテーション科学研究科研究倫理指針(案)

## ク. 施設、設備等の整備計画

### 1) 施設、設備の整備計画

リハビリテーション科学研究科の教育・研究は当別キャンパスにおいて行い、基本的にリハビリテーション科学部の施設・設備を共有する。

大学院学生の自習室については、専任教員の研究室を配置する既設の歯学部棟6階に1室(28㎡)設置し、机、椅子及びロッカーを10セット用意する他、書庫を整備する。また、大学院生の研究室として運動機能解析室(51.56㎡、専任教員と共用)を整備する。

### 2) 図書の整備計画

本学の蔵書は(2012年3月末集計)、図書:237,932冊、視聴覚資料:5,906点、学術雑誌:7,028種であり、学術雑誌の内訳は、雑誌本体:2,993種、電子ジャーナル:4,035種となっている。この内、WB(臨床医学)、WE(筋/骨格系)に該当する分野の図書が4,692冊、視聴覚資料が176点、学術雑誌が206種、電子ジャーナルが118種、すでに整備されている。

リハビリテーション分野の図書については、リハビリテーション科学部設置に伴う年次計画で整備することとしており、2012年度に新規購入する主な図書は別添資料のとおりである。

なお、図書館利用における大学院生の取扱いは以下のとおりである。

#### (1) 貸出冊数

大学院生の貸出冊数は、教員同様無制限とする。

(学部学生:図書5冊、視聴覚資料3点、雑誌3冊)

#### (2) 文献複写申し込み方法

文献複写の申し込み方法には以下の2方法があり、大学院生は教員同様2方法とも利用可能とする。(学部学生:aのみ可能)

a. 図書館カウンターでの申し込み。

b. 図書館ホームページよりオンラインでの申し込み。

#### (3) 保存書庫の利用

保存書庫には発行年の古い図書資料が保管されているが、大学院生は教員同様自由に利用可能とする。

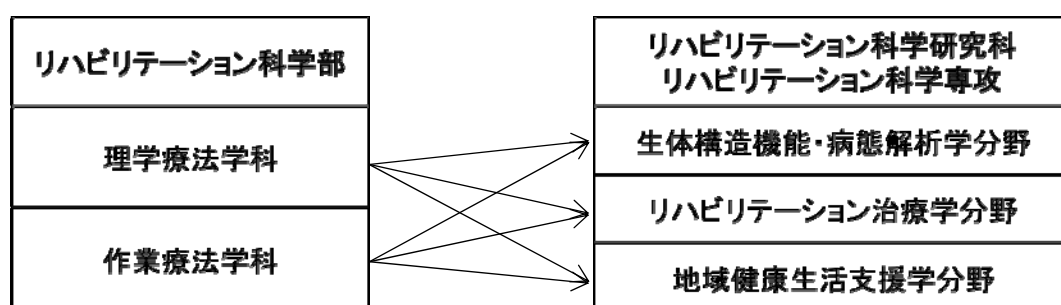
#### (4) 禁帯出図書(辞書・事典・白書類)の貸出

大学院生は教員同様禁帯出図書(辞書・事典・白書類)を貸出可能とする。

(資料7) 専門科目図書100冊リスト

## ケ. 既設の学部（リハビリテーション科学部）との関係

本研究科の基礎となるリハビリテーション科学部では、本学の教育理念のもと、保健・医療・福祉への切実なニーズに十分に答えられるリハビリテーション専門職、すなわち理学療法士および作業療法士の養成をめざしている。その上位課程にあたる本研究科修士課程においては、学部教育を発展させて、理学療法学と作業療法学の共通基盤をなす学問領域としてのリハビリテーション科学について追求していくことにより、保健・医療・福祉の各分野において、先進的な専門知識と技術を有し、多職種と連携・協働しながら、質の高いリハビリテーションを実践できる高度専門職業人を養成する。したがって、本研究科では学部における理学療法学科、作業療法学科という2学科の枠組みを統合・再編し、生体構造機能・病態解析学分野、リハビリテーション治療学分野および地域健康生活支援学分野からなる1専攻3研究分野で構成する。



## コ. 入学者選抜の概要

### 1. 入学者受入についての基本方針

本研究科では、高度化、多様化が進む現代の保健・医療・福祉の現場において、先進的な専門知識と技術をもって質の高いリハビリテーションサービスを提供できる高度専門職業人、リハビリテーション領域に関わる最先端の研究を通して培われた創造力・企画力・応用力をもって保健・医療・福祉現場や高等教育機関において指導的役割を担う人材の育成を目指している。このため入学試験においては、基礎学力を確認する英語、小論文、及び専門科目の筆記試験に加え、コミュニケーション能力、学習意欲などを評価するため面接を実施し、本研究科の目指す教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的に評価する。

また、受入に当たっては、4年制大学の卒業生だけでなく、短期大学や専修学校の卒業生で一定の要件を満たした者にも出願資格を与え、学ぶ意欲を持った者に対し広く門戸を開放することとし、「一般選抜」に加え、「社会人選抜」を行う。

### 2. 入学試験の実施概要

#### 1) 実施時期

10月と2月の2回実施する。なお、初年度は2月と3月に実施する。

#### 2) 出願資格

##### (1) 一般選抜

次のいずれかに該当する者を対象とする。

- ① 大学を卒業した者（入学前年度 3 月までに見込みの者を含む）
  - ② 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者（入学前年度 3 月までに修了見込みの者を含む）
  - ③ 文部科学大臣が指定した者
  - ④ 22 歳以上で、上記と同等以上の学力があると本研究科が認めた者
- (2) 社会人選抜

次のいずれかに該当する者で、関連の専門領域で 3 年以上の実務経験を有する者を対象とする。

- ① 大学を卒業した者
- ② 外国において、学校教育における 16 年の課程を修了した者
- ③ 文部科学大臣が指定した者
- ④ 医療系の短期大学または専修学校を卒業（修了）し、以下の国家資格を有する者  
理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、保健師、助産師、義肢装具士、放射線技師等
- ⑤ 22 歳以上で、上記と同等以上の学力があると認められた者

### 3) 募集人員

本研究科において募集する人数は、一般選抜と社会人選抜を合わせて 5 名とする。

### 4) 入学者選抜方法

#### (1) 一般選抜

英語、リハビリテーション領域に関する専門科目の学力検査および面接及び出願書類などを総合して判断する。面接は志望動機、研究活動の抱負などについての個別面接とする。

#### (2) 社会人選抜

大学等を離れて久しい社会人に配慮し、学力検査は小論文のみとし、面接及び出願書類などを総合して判断する。面接はこれまでの研究や臨床などの活動を記載した業務調査（出願時提出書類）に関する質問を含んだ個別面接とする。

## シ. 大学院設置基準第 2 条の 2 又は第 14 条による教育方法を実施する場合

既設の研究科では、高い学習意欲を持った社会人の学習機会の確保の観点から、大学院設置基準第 14 条に規定する教育方法の特例を適用するとともに、本学サテライトキャンパスを利用した授業を行ってきた。新設する本研究科においても、社会人学生の受け入れへの対応として、従来と同様に以下のとおり同規定を適用した教育を実施する。

#### (1) 履修指導及び研究指導の方法

原則として授業、研究指導は本大学院（当別キャンパス）で昼間に実施するものとするが、学生の就業状況と通学の負担等を考慮し、一部の授業について夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を実施する。また、日常的な指導については、e メール等を利用して、学生からの研究状況の報告と教員の指導等を相互に随時行うこととする。さらに、必要により後述する本学札幌サテライトキャンパスを利用する。

#### (2) 授業の実施方法

<授業時間>

授業時間は、以下のとおり夜間に 2 講時を設定する

・ 18 : 00 ~ 19 : 20      ・ 19 : 30 ~ 20 : 50

<開講場所>

開講場所は、本大学院（当別キャンパス）または札幌サテライトキャンパスとする。

なお、通常の授業は、平日の午後（15 : 40 ~ 17 : 00）に本大学院（当別キャンパス）で開講することを原則とする。

(3) 図書館・情報処理施設等及び必要な職員の配置

本学総合図書館は、平日は 21 : 00 まで開館しており、学生の利用に十分配慮されている。パソコンについては各研究室所有のものを使用することが多いが、同図書館にも文献検索等に利用可能なパソコン端末が 27 台設置されているほか、貸し出し用のノートパソコンも 30 台配備されている。

また、学内の学生ロビーには、LAN に接続する情報コンセントが大学（当別キャンパス）内に 100 箇所以上設置されている。

また、学生の厚生等への対応に関しては、学内の売店が 20 : 00 まで営業しているほか、職員については、既設の修士課程においてローテーション等の当番制で対応しているため、本研究科の設置で新たな業務は発生しない。

(4) 教員の負担の程度

本研究科の教員は学部の授業を主に担当しているが、学部については通常 9 時から 15 時 30 分までの時間帯の中で授業を行っており、また、土日に授業は行わない。大学院において一人の教員が担当する授業科目は、研究指導を除き週当たり 1 ~ 3 科目程度であるので、夜間開講の講義が週一回程度であれば、過剰な負担にならない。研究指導を夜間など特定の時間・時期に行う必要がある場合は、休日、長期休暇を利用した集中授業を取り入れながら、教員の負担が過度とならないよう配慮する。

後述する札幌サテライトキャンパスはさっぽろ駅前のビル内に設けられている。本学教員の場合、札幌市内に在住し、当別キャンパスへ通勤する者がほとんどであるので、通勤経路にある札幌サテライトキャンパスで夜間等の講義を行うことは、社会人学生ばかりでなく教員にとっても負担の軽減に役立つものと思われる。

## セ. 社会人を対象とした大学院教育の一部を本校以外の場所（サテライトキャンパス）で実施する場合

高い学習意欲を持った社会人等の学習機会の確保の観点から前項の大学院設置基準第 14 条の教育方法の特例に加え、一部の授業については本学札幌サテライトキャンパスを活用する。

本サテライトキャンパスは、札幌駅前のアスティ 45 ビル（J R 札幌駅・地下鉄さっぽろ駅から徒歩約 3 分という交通至便の位置）で、学生及び教員の通学・通勤など移動上の利便性も高く、教育研究上支障がない位置にあり、本学の他研究科も有効に活用している。

本サテライトキャンパスは同ビルの 12 階にあり、駅前とはいえ、静謐な環境が保たれている。同階はフロア全体が「大学共同利用施設（ACU）」と位置付けられており、本学のほかに札幌市立大学、名寄市立大学、立命館大学など 5 大学のサテライトキャンパスが設置されていて、教育に相応しい環境を十分備えている。

【本学札幌サテライトキャンパス・講義室等の概要】

| 室名              | 収容人員        | 備考                                     |
|-----------------|-------------|--|
| 講義室 A           | スクール形式 63 名 | 液晶プロジェクター設置<br>2 室を 1 室として最大 108 名利用可能 |
| 講義室 B           | スクール形式 45 名 |  |
| 会議室 A           | 会議形式 12 名   | 演習室として利用可能                             |
| 会議室 B           | 会議形式 10 名   |  |
| 研究調査室兼<br>学生自習室 | 5 名         | デスクトップ PC 2 台設置（他にノート<br>PC 3 台）       |

上記のほか、共用スペース（ロビー等）にも学生が自習するスペースが用意されている。

機器類としては、ノートパソコン、液晶プロジェクター、VTR、コピー機等が配備されており、講義室も上記に示したとおりであり、規模及び設備について授業の実施に十分に対応している。

図書等の施設としては、サテライトキャンパスに設置のパソコンは本学ネットワークへの接続が可能であり、本学総合図書館が学内で提供している文献情報検索等の各種サービスが利用可能である。

また、本サテライトキャンパスの管理については、管理業務を委託している ACU の業務職員が、開館時間（9：00～21：00）中常駐にており、講義等にも対応している。

（資料 8）札幌サテライトキャンパス位置及び配置図

## ソ. 多様なメディアを高度に利用して授業を教室以外の場所で履修させる場合

### 1. リハビリテーション科学研究科における遠隔地授業配信システム導入の必要性

本研究科は、リハビリテーション医療分野における高度専門職業人ならびに研究指導者の育成を目的に開設されるものであり、その教育・研究指導の対象となる学生は、現職の理学療法士および作業療法士を中心とする社会人大学院生も想定される。現職の社会人学生を対象とした教育・研究指導を運用し高い教育効果を得るためには、大学キャンパスへの通学に関する諸問題（通学距離、時間）、夜間・休日開講を含めた授業開講時間の調整、研究指導を行う時間の確保やその方法など、留意すべき事項は多い。また、潜在的な大学院入学希望者（現職の理学療法士および作業療法士）が全道各地に点在していることなどを総合的に勘案した場合、遠隔地に居住または在職し、本学キャンパスへの通学が困難な学生に対する教育・研究支援制度の導入は必須である。以上のような状況へ対応するために、一部の授業については以下のとおり「多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる」一環として、同時かつ双方向のコミュニケーションが可能なテレビ会議システムを利用した遠隔地授業配信システムを導入することとする。

### 2. 本研究科における遠隔地授業配信システムの基本的位置づけ

社会人であるか否かを問わず、本学大学院の授業科目は、本学において履修することを原則とする。しかしながら、やむを得ない事情で授業開講時間帯に通学する事が困難な社会人学生に対し、質疑応答も含めた双方向型教育システムを遠隔地授業配信方式で提供し、対面授業と同レベルを維持しつつ、講義を展開する必要がある。その際は、以下の基本方針を遵守するものとする。

（1）本制度は、やむを得ない事情で授業開講時間帯に通学する事が困難な社会人学生に対しての教育支援システムとして行うものであること。そのため、本学キャンパスへ通学可能な

- 地域に在勤・在住する学生については、通学したうえでの対面授業方式を原則とすること。
- (2) 開講科目の全てを遠隔地授業配信方式対応とはせず、指導内容や担当教員の教育方針を踏まえて、遠隔地授業配信方式に対応可能か否かを決定する。このため、当面の当システム対応授業科目は必修の「リハビリテーション教育特論」「リハビリテーション管理学特論」「リハビリテーション研究法特論Ⅰ（研究計画）」「リハビリテーション研究法特論Ⅱ（量的研究）」「リハビリテーション研究法特論Ⅲ（質的研究&事例研究）」「保健医療統計学特論」の合計6科目12単位からスタートさせる。
- (3) 上記以外の授業科目の履修や下記「5」の場合においては、札幌サテライトキャンパス等において、夜間開講（14条特例）や集中指導による講義を主体とするものとする。

### 3. 実施場所、実施方法

本システムの運用は、対面方式にて開講される授業を、遠隔地に居住する学生へリアルタイムに配信していく講義形態を基本とする。従って、webカメラや音響システムを備えた講義室を、大学院授業科目開講のための専用施設として整備する必要がある。具体的には、以下のシステム要件を備えた小規模講義室を、当別キャンパスに2室、札幌サテライトキャンパスに1室、計3室整備する。

- ① 本学当別キャンパス 中央講義棟10階、演習室 1室
- ② 同歯学部棟6階（リハビリテーション科学部研究棟）会議室 1室
- ③ 札幌サテライトキャンパス（札幌駅前に設置）内演習室 1室

上記各教室に備えるシステム概要

- ① 音響設備関連
- ② ネットワークカメラ関連
- ③ 上記設備の設置工事および保守費用
- ④ ネットワーク対応電子黒板

遠隔地授業配信システムを利用する講義は、上記3教室のいずれかにおいて教員と実際に出席可能な大学院生が通常の対面形式で講義、ゼミなどの授業をおこない、その様子をテレビカメラで撮影しながらインターネットを介して、他の教室以外の場所にいる大学院生へ配信する。このシステムの利点は

- ① 相手の顔を見ながら会話を行い、表情・声・文字をダイレクトに伝えられること
  - ② 対面方式で授業を行っている教室内受講生と同レベルの学習効果が得られること
  - ③ 講義内容の伝達形式が双方向型の教育システムであること
- などがあげられる。

### 4. 学則における規定

これまで本学大学院学則には特に規定されていなかったが、今般のリハビリテーション科学研究科設置に基づく大学院学則変更の際し、その第15条（教育方法の特例）第2項に以下のとおり条文を追加した。

[大学院学則第15条第2項]

本大学院では、多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で行うことができる。

### 5. 当該実施方法が告示の要件を満たすものであることの具体的説明

告示の一において「同時かつ双方向に行われるもの」と規定されている部分については、前述のとおり、テレビ会議システムを応用したもので、同時かつ双方向型の教育システムとなっている。

「授業を行う教室以外の教室、研究室又はこれに準ずる場所において履修させるもの」につ



いては、札幌市内（江別市、小樽市、千歳市など札幌駅前までおおむね1時間以内で通学できる範囲も含む）に勤務あるいは居住する学生については札幌サテライトキャンパスでの履修を原則とする。

上記以外の北海道の郡部に勤務・居住する学生については、勤務先病院・施設等に職員研修室・研究室等の設備があり、本研究科が静謐な環境で「教室、研究室又はこれらに準ずる場所」と認定した場合は、当該施設管理者と利用協定等を締結し、当該箇所で履修させるものとする。また、勤務先等に当該箇所の確保が困難な場合は、地元の教育委員会、社会教育団体等と連携しながら、「教室、研究室又はこれらに準ずる場所」の確保に努める。

## チ. 管理運営

本研究科の管理運営については、審議機関として大学院学則の規定に基づき「リハビリテーション科学研究科委員会」を設置し、毎月1回定例開催する。

当該委員会は、「リハビリテーション科学研究科委員会規程」において、当該研究科を担当する専任の教授をもって構成され、以下の事項を審議することが規定されている。

- ① 規程の制定及び改廃に関する事項
- ② 教員の人事に関する事項
- ③ 学生の入学、退学、転学、休学及び修了並びに除籍及び懲戒に関する事項
- ④ 教育課程の編成及び試験に関する事項
- ⑤ 学位論文提出者の資格審査に関する事項
- ⑥ 学位論文の審査に関する事項
- ⑦ その他教育、研究及び運営に関する重要事項

なお、研究科委員会の上位機関となる全学の審議機関として、学部の評議会に相当する「大学院委員会」が設置されており、大学院にかかわる全学的な重要事項を審議している。

## ツ. 自己点検・評価

### 1. 実施方法

本学では、大学学則と同様に大学院学則においても「教育研究活動の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する」と定め、これに基づいて1992年9月に「点検評価規程」を制定し、自己点検・評価を実施している。

### 2. 実施体制

自己点検・評価の実施に当たっては、「点検評価全学審議会」において、点検及び評価の基本方針並びに実施基準を設定している。「点検評価全学審議会」は学長を長とし、副学長、各学部長、総合図書館長、大学病院長、歯科衛生士専門学校長、個体差医療科学センター長、個体差健康科学研究所長、事務局長で構成し、事務は総務企画課が所轄している。「点検評価全学審議会」の下に、実施部局ごとに「評価委員会」を置き、点検と評価を行っている。また、「点検評価全学審議会」が行う点検評価に関して、本学職員からの質疑・異議の申立受理機関として「審査委員会」を置き、申立があった場合に、当該事項の資料収集、調査を行い、是正措置を講ずる体制を整備している。

### 3. 結果の活用・公表

自己点検・評価結果は、報告書として取りまとめ、ホームページを通じて、学内外に広く公表し、積極的な情報公開に努めている。

また、7年周期で実施される外部評価の他、その間毎年度大学独自の点検・評価活動を行い、改善に向けた努力を行っている。

### 4. 評価項目

評価項目は「点検評価規程」第2条第2項において以下のとおり定めている。

- ① 教育理念・目標に関する事項
- ② 教育研究上の組織に関する事項
- ③ 学生受入に関する事項
- ④ 学生生活に関する事項
- ⑤ 教育活動に関する事項
- ⑥ 研究活動に関する事項
- ⑦ 診療及び臨床教育に関する事項
- ⑧ 教員組織に関する事項
- ⑨ 総合図書館・施設・設備に関する事項
- ⑩ 国際交流に関する事項
- ⑪ 社会との連携に関する事項
- ⑫ 広報に関する事項
- ⑬ 教育管理運営に関する事項
- ⑭ 自己評価体制に関する事項

### 5. 外部評価

本学は、1994年4月に、大学基準協会の加盟判定審査を受け、維持会員校（現在は「正会員」と呼称）となり、その後、以下のとおり外部評価を行っている。

1996年 大学基準協会第1回相互評価 申請・認定（本学1回目）

2003年 大学基準協会第8回相互評価 申請・認定（本学2回目）

2006年 財団法人日本高等教育評価機構＜私立大学協会加盟大学対象機関＞へ入会

2007年 大学基準協会第8回相互評価結果に係る「改善報告書」提出

2010年 大学基準協会第15回大学評価（旧相互評価）申請・認定（本学3回目）

### ト. 情報の公表

教育および研究活動の状況を明らかにし、それらの成果が広く社会で活用されることは本学の社会に対する使命であると考え、また、社会的存在として大学を広く認知してもらうことも必要であるので、本学はさまざまな情報の提供を積極的に推し進める。

大学ホームページにおいては、建学の理念から教育理念、教育目標、ならびに三ポリシー（入学者受け入れの方針・教育課程編成と実施の方針・学位授与の方針）など、大学および各学部等の基盤となる考え方を示す。そして、それらに基づいて構築されている大学の根幹をなす教育課程については、4年間（あるいは6年間）の全体像を示したうえで教務日程、授業時間割、さらに授業内容の詳細に至るまで公表し、各学部および学科の特色も明らかにする。

また、大学の基本的情報である各学部および学科の定員や在籍学生数、教員数、大学と大学院の学則などを掲載するとともに、専任教員や各講座を紹介するページも設けて大学の実像を広く社会に発信する。加えて教育活動の成果でもある国家試験の結果や卒後の就職状況などについても具体的な数値によって公表する。

一方、大学のもう一つの使命である研究活動に関しては、各教員が所属する学会を示した上で現在どのような研究課題に取り組んでいるかを公表し、研究の成果である著書や研究論文の実績を明らかにする。科学研究費補助金の受給状況についても、ホームページ上のニュースとして随時最新の情報を提供する。

大学の管理運営的側面の情報公開に関しては、各年度の財務状況（予算及び決算）および事業報告書を公表し、さらに2011年3月に財団法人大学基準協会より認証評価を受けたことについて評価報告書も併せて掲載する。

大学ホームページによる情報の公表に加えて、毎年6月に大学広報誌「MESSAGE」を発刊している（2012年度版は171ページ）。ここには、上述の教育や研究に関わる活動と実績、財務状況も含めた管理運営体制などを掲載し、加えて教育改革の取り組み、大学の施設と設備、履修と生活に関わる学生相談の体制、学生生活の現況、社会貢献の実績などについて、自己点検評価の概要を毎年更新して公表する。

#### ①大学の教育研究上の目的に関すること

| 内容                    | URL<br>(http://www.hoku-iryo-u.ac.jp…) | サイト<br>(トップ>情報の公表>…) |
|-----------------------|--|----------------------|
| 建学の理念・行動方針・三方針        | /~summary/rinen.html                   | 大学の教育研究上の目的に関すること    |
| 大学院三方針                | /~summary/in-policy.html               |                      |
| 薬学部 教育理念・教育目標         | /~pharm/rinen.html                     |                      |
| 大学院薬学研究科 教育理念・教育目標    | /~pharm/in/rinen.html                  |                      |
| 歯学部 教育理念・教育目標         | /~dental/rinen.html                    |                      |
| 大学院歯学研究科 教育理念・教育目標    | /~dental/in/rinen.html                 |                      |
| 看護福祉学部 教育理念・教育目標      | /~nss/rinen.html                       |                      |
| 大学院看護福祉学研究科 教育理念・教育目標 | /~nss/in/rinen.html                    |                      |
| 心理科学部 教育理念・教育目標       | /~shinri/rinen.html                    |                      |
| 大学院心理科学研究科 教育理念・教育目標  | /~shinri/in/rinen.html                 |                      |

#### ②教育研究上の基本組織に関すること

| 内容    | URL<br>(http://www.hoku-iryo-u.ac.jp…) | サイト<br>(トップ>情報の公表>…) |
|-------|--|----------------------|
| 組織・沿革 | /~summary/soshiki.html                 | 教育研究上の基本組織に関すること     |

#### ③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| 内容                  | URL<br>(http://www.hoku-iryo-u.ac.jp…)       | サイト<br>(トップ>情報の公表>…)            |
|---------------------|--|---------------------------------|
| 教職員組織について           | /~jinji/topics/faculty-org.html              | 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること |
| 教員役職者等一覧            | /~summary/disc_data/yakusyoku.pdf            |                                 |
| 年齢構成                | /~jinji/topics/faculty-org.html              |                                 |
| 専任教員の学位及び主な研究内容について | /~jinji/topics/faculty-staff.html            |                                 |
| 研究活動について            | http://gyoseki.hoku-iryo-u.ac.jp/huhhp/KgApp |                                 |

④入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は終了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

| 内容                      | URL<br>(http://www.hoku-iryo-u.ac.jp…) | サイト<br>(トップ>情報の公表>…)  |
|-------------------------|--|---|
| 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） | /~koho/youkou/admission_index.html     | 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は終了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること |
| 入学者数                    | /~summary/disc_data/nyugaku.pdf        |   |
| 収容定員・在籍学生数・収容定員比率       | /~summary/disc_data/zaiseki.pdf        |   |
| 編入学定員・編入学者数             | /~summary/disc_data/hennyu.pdf         |   |
| 大学 卒業者数・就職者数            | /~summary/disc_data/sotu-syu-data.pdf  |   |
| 大学 就職状況                 | /~syusyoku/jyokyo.html                 |   |
| 大学院 学位授与状況・就職状況         | /~summary/disc_data/gakuijuyo-data.pdf |   |

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

| 内容   | URL<br>(http://www.hoku-iryo-u.ac.jp…) | サイト<br>(トップ>情報の公表>…)            |
|------|--|---------------------------------|
| シラバス | /for/student/syllabus.html             | 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること |

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

| 内容         | URL<br>(http://www.hoku-iryo-u.ac.jp…) | サイト<br>(トップ>情報の公表>…)                |
|------------|--|-------------------------------------|
| 履修カリキュラム   | /for/student/syllabus.html             | 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること |
| 薬学部履修規程    | /~summary/disc_data/pharm-kitei.pdf    |                                     |
| 歯学部履修規程    | /~summary/disc_data/dental-kitei.pdf   |                                     |
| 看護福祉学部履修規程 | /~summary/disc_data/nss-kitei.pdf      |                                     |
| 心理科学部履修規程  | /~summary/disc_data/shinri-kitei.pdf   |                                     |
| 学位規程       | /~summary/disc_data/gakui.pdf          |                                     |

⑦校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

| 内容          | URL<br>(http://www.hoku-iryo-u.ac.jp…) | サイト<br>(トップ>情報の公表>…)                     |
|-------------|--|--|
| アクセス・マップ    | /~summary/map.html                     | 校地・校舎等の施設及び設備<br>その他の学生の教育研究環境<br>に関すること |
| キャンパスマップ    | /~koho/faci/sogo.html                  |  |
| キャンパス・アメニティ | /~summary/disc_data/amenity.pdf        |  |
| 施設・設備紹介     | /~koho/faci/sogo.html                  |  |
| 施設・設備 整備状況  | /~summary/disc_data/shisetu.pdf        |  |
| クラブ紹介 体育局   | /~koho/life/taiku_index.html           |  |
| クラブ紹介 文化局   | /~koho/life/bunka_index.html           |  |
| 総合図書館       | http://library.hoku-iryo-u.ac.jp/      |  |

⑧授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

| 内容                           | URL<br>(http://www.hoku-iryo-u.ac.jp…) | サイト<br>(トップ>情報の公表>…)           |
|------------------------------|--|--------------------------------|
| 学費について                       | /~koho/youkou/gakuhi_index.html        | 授業料、入学料その他の大学<br>が徴収する費用に関すること |
| 編入学・大学院・歯科衛生士<br>専門学校の学費について | /~koho/youkou/gakuhi_02.html           |                                |
| 歯学部「特待奨学生」制度                 | /~koho/tokubetu/index.htm              |                                |
| 夢つなぎ入試                       | /~koho/yume/index.html                 |                                |
| 学生生活 アパートマンショ<br>ンのご案内       | /~koho/life/apa.html                   |                                |

⑨大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| 内容                   | URL<br>(http://www.hoku-iryo-u.ac.jp…) | サイト<br>(トップ>情報の公表>…)                       |
|----------------------|--|--|
| 学生生活について             | /for/student/seikatu.html              | 大学が行う学生の修学、進路<br>選択及び心身の健康等に係る<br>支援に関すること |
| 各種証明書について            | /for/student/shioumei.html             |  |
| 学生相談について             | /for/student/soudan.html               |  |
| 健康管理について             | /for/student/kenkou.html               |  |
| 学生援助金貸付制度            | /for/student/enjyo.html                |  |
| 本学奨学制度               | /~koho/youkou/syougaku_index.html      |  |
| ハラスメント防止への対策に<br>ついて | /~jinji/haras/index.html               |  |
| 就職支援について             | /~syusyoku/                            |  |

⑩その他（教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規定、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果 等）

| 内容          | URL<br>(http://www.hoku-iryo-u.ac.jp…) | サイト<br>(トップ>情報の公表>…)           |
|-------------|--|--------------------------------|
| 薬学部の特徴      | /~pharm/yaku/tokusyoku.html            | 教育上の目的に応じ学生が修<br>得すべき知識及び能力に関す |
| 薬学部 資格・国家試験 | /~pharm/yaku/sikaku.html               |                                |

|                       |  |                     |
|-----------------------|--|---------------------|
| 歯学部の特徴                | <a href="#">/~dental/den/tokusyoku.html</a>  | ること                 |
| 歯学部 資格・国家試験           | <a href="#">/~dental/den/sikaku.html</a>     |                     |
| 看護福祉学部看護学科の特徴         | <a href="#">/~nss/kan/tokusyoku.html</a>     |                     |
| 看護福祉学部看護学科 資格・国家試験    | <a href="#">/~nss/kan/sikaku.html</a>        |                     |
| 看護福祉学部臨床福祉学科の特徴       | <a href="#">/~nss/fuku/tokusyoku.html</a>    |                     |
| 看護福祉学部臨床福祉学科 資格・国家試験  | <a href="#">/~nss/fuku/sikaku.html</a>       |                     |
| 心理科学部臨床心理学科の特徴        | <a href="#">/~shinri/shin/tokusyoku.html</a> |                     |
| 心理科学部臨床心理学科 資格        | <a href="#">/~shinri/shin/sikaku.html</a>    |                     |
| 心理科学部言語聴覚療法学科の特徴      | <a href="#">/~shinri/gen/tokusyoku.html</a>  |                     |
| 心理科学部言語聴覚療法学科 資格・国家試験 | <a href="#">/~shinri/gen/sikaku.html</a>     |                     |
| 学校法人東日本学園財務状況         | <a href="#">/~summary/zaimu.html</a>         | 財務に関する状況            |
| 北海道医療大学学則             | <a href="#">/~summary/gakusoku.html</a>      | トップ>情報の公表>大学概要>学則   |
| 認証評価結果                | <a href="#">/~summary/tenken.html</a>        | トップ>情報の公表>大学概要>大学評価 |

## ナ. 教員の資質の維持向上の方策

本学では、全学のFD委員会を組成し、「教育研究に携わる教員の資質あるいは能力開発」を目的とした種々の活動を行っている。その内容は、1) 教育、2) 研究、3) 社会サービス、4) 管理運営から構成される。その中で教育については、①カリキュラム、②教育内容、③教育技術・技法が含まれている。これまで実施してきた組織的な取り組みとしては、1993年度から授業方法の改善・開発を目指した「学生による授業アンケート」、1995年度からは教員の資質向上を目的とした派遣研修、2002年度からは教育・教育・社会貢献・管理運営等に対応できる資質向上を目的としたFD研修、2004年度からは新任教員を対象とした新任教員研修をそれぞれ実施してきている。このほか、最近では年2～3回のFDセミナー（シンポジウム等）も開催している。

また、全学FD活動とは別に、学部毎にもFD委員会を組成し、専門教育に関するFD活動も実施している。リハビリテーション科学部については既設学部同様に、2013年度の学部スタートと同時にリハビリテーション科学部FD委員会を発足し、種々のFD活動に取り組む予定である。活動内容は学部教育に関する内容がその中心となるが、大学院を担当する教員が学部教員も兼ねていることから、FD活動の中に大学院教育に関するテーマも含めて、教員の資質向上を図ることとする。

---

北海道医療大学新学部ニーズ調査報告書 (抜粋)  
大学院進学需要について

2011年12月

# 大学院進学需要について

## アンケート集計結果(貴院に大学院進学を検討しているOT PTはいますか)

| No. | 選択肢   | 件数  | 全体     |
|-----|-------|-----|--------|
| 1   | いる    | 17  | 6.2%   |
| 2   | いない   | 135 | 49.1%  |
| 3   | 分からない | 123 | 44.7%  |
|     | サンプル数 | 275 | 100.0% |

### 調査方法

- ・ 北海道内の医療機関839施設に対して調査票による調査を実施。  
調査時には学部・大学院説明資料を配布した。
- ・ 回収 275施設 回収率 32.8%

## 北海道内潜在需要予測

|               |        |    |
|---------------|--------|----|
| 回答した施設の療法士推定値 | 825人   | ※1 |
| 大学院進学検討率の推定値  | 2.1%   | ※2 |
| 北海道内における療法士の数 | 8,093人 | ※3 |

※1 275施設×3名(1施設の平均を3名とする)=825人

※2 大学院進学を検討している療法士は17施設に在籍しているので、各施設少なくとも1名の療法士が進学を検討していると仮定  
(17施設×1人)÷825人×100≒2.1%

※3 理学療法士 4,929人+ 作業療法士3,164人= 8,093人(各々北海道内の協会員数と組織率から推計)

## 北海道内潜在需要予測結果

北海道医療大学大学院リハビリテーション科学研究科修士課程受験潜在需要  
8,093人×2.1%≒170人



# 大学院進学需要について

## インタビュー&アンケート自由意見

北海道内高校進路指導教員、予備校関係者、北海道内病院のリハビリテーション部門関係者のインタビューおよびアンケートにおける主な意見

➤ **専門学校卒業者の進学需要が見込める可能性が高い。また、大学院の成功には教授の魅力が非常に大きいと推察される。社会人のために通学のしやすさにも考慮が必要。**

➤ **専門学校卒業者の需要が見込めるのではないかと。専門学校卒と大学院修士だと大分イメージが違う**

・ 現在札幌には札幌医大の大学院があるが、選択肢が増えるのは良い。理学療法、作業療法もよりレベルを上げるためには大学院まであったほうがよい。4年制専門学校卒業者の需要があるのではないかと。専門学校卒と大学院修士課程終了だと大分イメージが違う。(予備校関係者)

➤ **大学院志向は高まっている。専門学校卒の方で進学を検討している人も多いのでは**

・ 自分が大学院に通っていたのは10年以上前になるが、当時に比べて大学院志向は大分高まっていると思う。専門学校卒の方もガッツのある方が多いので視野に入れている方も多いのではないかと。(医療関係者)

➤ **夜間開講がある大学院でないと社会人には厳しい**

・ 大学院進学を検討しているO,TPTは院内にいるし、実際、札幌医大の大学院に通っているものもいるが、やはり夜間がないと社会人には厳しい。東京は夜間と土日で通える大学院が首都大学東京にある。(医療関係者)

➤ **専門学校卒は一般教養がカバーできていない。専門学校を出ただけだと、という人にとっては非常に良いこと**

・ 今研究というものが出来ない人は非常に厳しい。4年制大学卒業生は良いが、専門学校卒になってくるとどうしても基礎素養能力が下回っていて一般教養的なところがカバーできていない。だから大学院が出来ることは専門学校を出ただけだと、という人たちには非常に良いことだと思う。(医療関係者)

➤ **大学院の成功は大学院の教授の魅力が非常に大きいのではないかと。この先生なら行きたいけど、この先生なら行きたくないというのは出てくるだろう**

・ 医療大学さんの大学院の成功は、大学院の教授の魅力が非常に大きいのではないかと。学生はそのゼミの先生、主任教授、指導教授の研究内容しか研究できない。なので、この先生なら行きたいけど、この先生なら行きたくないというのは出てくるだろう。(医療関係者)

リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻(修士課程)カリキュラム表・担当教員・履修モデル

| 科目区分             | 授業科目の名称                    | 配当年次 | 配当期 | 単位数 |    | 時間数        | 担当予定教員  | 高度専門職業人を養成するコース①<br>専攻領域:<br>精神障害リハビリテーション学 | 高度専門職業人を養成するコース②<br>専攻領域:<br>作業行動学 | 研究従事者を養成するコース<br>専攻領域:<br>運動・動作解析学 |
|------------------|----------------------------|------|-----|-----|----|------------|---|---|------------------------------------|------------------------------------|
|                  |                            |      |     | 必修  | 選択 |            |   |   |                                    |                                    |
| 共通科目             | リハビリテーション教育特論              | 1・2  | 後期  | 2   |    | 30         | 鎌田教授、小島教授   | ○ 基礎的素養                                     | ○ 基礎的素養                            | ○ 基礎的素養                            |
|                  | リハビリテーション管理学特論             | 1・2  | 後期  | 2   |    | 30         | 泉教授、鈴木教授、(今野)、(清水)  | ○ 基礎的素養                                     | ○ 基礎的素養                            | ○ 基礎的素養                            |
|                  | リハビリテーション研究法特論Ⅰ(研究計画)      | 1    | 前期  | 2   |    | 30         | 堀本教授、宮崎講師   | ○ 基礎的素養                                     | ○ 基礎的素養                            | ○ 基礎的素養                            |
|                  | リハビリテーション研究法特論Ⅱ(量的研究)      | 1    | 前期  | 2   |    | 30         | 吉田教授、浅野准教授  | ○ 基礎的素養                                     | ○ 基礎的素養                            | ○ 基礎的素養                            |
|                  | リハビリテーション研究法特論Ⅲ(質的研究&事例研究) | 1    | 前期  | 2   |    | 30         | 本家教授、大塚助教、(村田)  | ○ 基礎的素養                                     | ○ 基礎的素養                            | ○ 基礎的素養                            |
|                  | 医療英語特論                     | 1・2  | 前期  | 2   |    | 30         | (半田)  |   |                                    | ○ 基礎的素養                            |
|                  | 医療経済学特論                    | 1・2  | 後期  | 2   |    | 30         | 千葉講師  |   |                                    |                                    |
|                  | 生命科学特論                     | 1・2  | 前期  | 2   |    | 30         | 国永教授  |   |                                    |                                    |
|                  | 精神保健学特論                    | 2    | 前期  | 2   |    | 30         | 上野教授  | ○ 基礎的素養                                     |                                    |                                    |
|                  | 神経科学特論                     | 1・2  | 前期  | 2   |    | 30         | (和泉)、(倉橋)   |   |                                    |                                    |
|                  | 保健医療統計学特論                  | 1    | 後期  | 2   |    | 30         | (松岡)  | ○ 基礎的素養                                     | ○ 基礎的素養                            | ○ 基礎的素養                            |
| 小計 (11科目)        | —                          |      |     | 12  | 10 |            |   | 14  | 12                                 | 14                                 |
| 専門科目             | 解剖学特論                      | 1・2  | 前期  | 2   |    | 30         | 高橋教授、(坂倉)   |   |                                    | ○                                  |
|                  | 解剖学演習                      | 1・2  | 前期  | 2   |    | 30         | 高橋教授、(坂倉)   |   |                                    |                                    |
|                  | 身体運動科学特論                   | 1・2  | 前期  | 2   |    | 30         | 宮崎講師、山口教授   |   |                                    |                                    |
|                  | 身体運動科学演習                   | 1・2  | 後期  | 2   |    | 30         | 宮崎講師、山口教授   |   |                                    |                                    |
|                  | 運動・動作解析学特論                 | 1・2  | 前期  | 2   |    | 30         | 小島教授  |   |                                    | ○                                  |
|                  | 運動・動作解析学演習                 | 1・2  | 後期  | 2   |    | 30         | 小島教授  |   |                                    | ○                                  |
|                  | 小計 (6科目)                   | —    |     | 0   | 12 |            |   |   |                                    | 6                                  |
|                  | リハビリテーション学特論               | 1・2  | 前期  | 2   |    | 30         | 泉教授   |   |                                    |                                    |
|                  | リハビリテーション学演習               | 1・2  | 後期  | 2   |    | 30         | 泉教授   |   |                                    |                                    |
|                  | 運動障害リハビリテーション学特論           | 1・2  | 前期  | 2   |    | 30         | 吉田教授、大塚助教   |   |                                    | ○                                  |
| 運動障害リハビリテーション学演習 | 1・2                        | 後期   | 2   |     | 30 | 吉田教授、大塚助教  |   |   |                                    |                                    |
| 発達障害リハビリテーション学特論 | 1・2                        | 前期   | 2   |     | 30 | 堀本教授       |   |   |                                    |                                    |
| 発達障害リハビリテーション学演習 | 1・2                        | 後期   | 2   |     | 30 | 堀本教授       |   |   |                                    |                                    |
| 精神障害リハビリテーション学特論 | 1・2                        | 前期   | 2   |     | 30 | 浅野准教授、(坂野) | ○   |   |                                    |                                    |
| 精神障害リハビリテーション学演習 | 1・2                        | 後期   | 2   |     | 30 | 浅野准教授      | ○   |   |                                    |                                    |
| 小計 (8科目)         | —                          |      | 0   | 16  |    |            | 4   |   |                                    | 2                                  |
| 地域健康生活支援学分野      | 作業行動学特論                    | 1・2  | 前期  | 2   |    | 30         | 鎌田教授、本家教授   |   | ○                                  |                                    |
|                  | 作業行動学演習                    | 1・2  | 後期  | 2   |    | 30         | 鎌田教授、本家教授   |   | ○                                  |                                    |
|                  | 地域生活支援学特論                  | 1・2  | 前期  | 2   |    | 30         | 鈴木教授  | ○   |                                    |                                    |
|                  | 地域生活支援学演習                  | 1・2  | 後期  | 2   |    | 30         | 鈴木教授  |   |                                    |                                    |
| 小計 (4科目)         | —                          |      | 0   | 8   |    |            | 2   | 4   |                                    |                                    |
| 隣接科目             | 公衆衛生調査法                    | 1・2  | 前期  | 2   |    | 30         | (西)、(志渡)、(三宅)   |   | ○ 基礎的素養                            |                                    |
|                  | 遺伝医学・医療論                   | 1・2  | 後期  | 1   |    | 15         | (松田)、(新川)、(太田)  |   |                                    |                                    |
|                  | 心身医学特論                     | 1・2  | 後期  | 1   |    | 15         | (久村)  |   |                                    |                                    |
|                  | ヘルスプロモーション論                | 1・2  | 後期  | 2   |    | 30         | (芳賀)  |   | ○ 基礎的素養                            |                                    |
|                  | 音楽療法特論                     | 1・2  | 前期  | 2   |    | 30         | (近藤)、(鈴木)   |   |                                    |                                    |
|                  | 障害福祉学特論                    | 1・2  | 前期  | 2   |    | 30         | (向谷地)   | ○ 基礎的素養                                     | ○ 基礎的素養                            |                                    |
|                  | 高齢者福祉学特論                   | 1・2  | 前期  | 2   |    | 30         | (石川)  |   |                                    |                                    |
| 小計 (7科目)         | —                          |      | 0   | 12  |    |            | 2   | 6   |                                    |                                    |
| 研究指導             | リハビリテーション科学研究              | 2    | 通年  | 8   |    | 240        | 泉教授<br>鎌田教授、本家教授<br>鈴木教授、千葉講師<br>小島教授<br>高橋教授<br>吉田教授、大塚助教<br>堀本教授<br>浅野准教授<br>宮崎講師、山口教授、国永教授<br>上野教授 | ○   | ○                                  | ○                                  |
|                  | 小計 (1科目)                   | —    |     | 8   | 0  |            |   | 8   | 8                                  | 8                                  |
|                  | 合計 (37科目)                  | —    |     | 20  | 58 |            |   | 30  | 30                                 | 30                                 |

- ・共通科目から必修12単位を履修する。
- ・専門科目から専攻する領域の特論・演習科目4単位を履修する。
- ・研究指導8単位を履修する。
- ・上記ならびに選択科目を含め、合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、学位論文の審査及び最終試験に合格する。  
(ただし、専門科目の演習は同一科目名の特論の履修を条件とする。)

リハビリテーション科学研究科リハビリテーション科学専攻 時間割

|    | 曜日 | 学年 | I                        | II                   | III                      | IV                                   | V   |
|----|----|----|--------------------------|----------------------|--------------------------|--------------------------------------|---|
|    |    |    | 9:00～10:20               | 10:30～11:50          | 12:40～14:00              | 14:10～15:30                          | 15:40～17:00                                 |
| 前期 | 月  | 1  | 運動・動作解析学特論               | 解剖学特論                |                          | 医療英語特論                               |   |
|    |    | 2  | 小島                       | 高橋・坂倉                | リハビリテーション科学研究<br>①⑥⑧⑨⑩   | 半田                                   | リハビリテーション科学研究<br>②⑧⑩                        |
|    | 火  | 1  | 内部障害リハビリテーション学特論         | 身体運動科学特論             | 公衆衛生調査法                  | 生命科学特論                               | ●リハビリテーション研究法特論Ⅰ<br>(研究計画)<br>堀本・宮崎         |
|    |    | 2  | 泉                        | 宮崎・山口                | 西・志渡・三宅                  | 国永                                   | リハビリテーション科学研究<br>①②④⑤⑥⑧⑩                    |
|    | 水  | 1  |                          | 運動障害リハビリテーション学特論     | 発達障害リハビリテーション学特論         |                                      | ●リハビリテーション研究法特論Ⅲ<br>(量的研究&事例研究)<br>本家、大塚、村田 |
|    |    | 2  | リハビリテーション科学研究<br>①③④⑤⑦⑨⑩ | 吉田・大塚                | 堀本                       | 精神保健学特論<br>上野                        | リハビリテーション科学研究<br>①②③④⑤⑥⑦⑧⑨                  |
|    | 木  | 1  | 高齢者福祉学特論                 | 音楽療法学特論              |                          | 神経科学特論                               | 精神障害リハビリテーション学特論                            |
|    |    | 2  | 石川                       | 近藤・鈴木は               | リハビリテーション科学研究<br>②④⑤⑥⑦   | 和泉・倉橋                                | 浅野雅・坂野                                      |
|    | 金  | 1  | 作業行動学特論                  | 障害者福祉学特論             | 解剖学演習                    | ●リハビリテーション研究法特論Ⅱ<br>(量的研究)<br>吉田・浅野雅 | 地域生活支援学特論                                   |
|    |    | 2  | 鎌田・本家                    | 向谷地                  | 高橋・坂倉                    | リハビリテーション科学研究<br>⑦⑨                  | 鈴木英   |
| 後期 | 月  | 1  | 作業行動学演習                  | ●リハビリテーション教育特論       | ●保健医療統計学特論               | ●リハビリテーション管理学特論                      | 遺伝医学・医療論                                    |
|    |    | 2  | 鎌田・本家                    | 鎌田・小島                | 松岡<br>リハビリテーション科学研究<br>④ | 泉・鈴木英・今野・清水                          | 松田・新川・太田                                    |
|    | 火  | 1  | 地域生活支援学演習                | 運動・動作解析学演習           | 内部障害リハビリテーション学演習         |                                      | 医療経済学特論                                     |
|    |    | 2  | 鈴木英                      | 小島                   | 泉                        |                                      | 千葉  |
|    | 水  | 1  | 発達障害リハビリテーション学演習         | ヘルスポーション論            | 精神障害リハビリテーション学演習         | 心身医学特論                               | 身体運動科学演習                                    |
|    |    | 2  | 堀本                       | 芳賀                   | 浅野雅                      | 久村                                   | 宮崎・山口                                       |
|    | 木  | 1  |                          |                      |                          |                                      |   |
|    |    | 2  | リハビリテーション科学研究<br>④       | リハビリテーション科学研究<br>③⑤⑦ | リハビリテーション科学研究<br>①②③⑧⑨   | リハビリテーション科学研究<br>①③④⑧⑨⑩              | リハビリテーション科学研究<br>②⑩                         |
|    | 金  | 1  | 運動障害リハビリテーション学演習         |                      |                          |                                      |   |
|    |    | 2  | 吉田・大塚                    | リハビリテーション科学研究<br>④⑥⑨ | リハビリテーション科学研究<br>③⑤⑥⑦⑨   | リハビリテーション科学研究<br>①②③⑤⑥⑦⑧⑩            | リハビリテーション科学研究<br>①②③⑤⑥⑦⑧⑩                   |

※ 使用教室は中央講義棟10Fの演習室(10名～25名収容 全12室)のうちいずれかを一室を使用する。

※ ●は必修科目で、これらの科目は、履修する大学院生が社会人等の場合は、メディアによる授業を行うことがある。その際は、VI講時の時間帯を設定する。

※ リハビリテーション科学研究の専攻領域ごとの研究指導教員は以下のとおり。各教員ごとに通年240時間となる。

|   |          |
|---|----------|
| ① | 泉教授      |
| ② | 鎌田教授     |
| ③ | 鈴木教授     |
| ④ | 小島教授     |
| ⑤ | 高橋教授     |
| ⑥ | 吉田教授     |
| ⑦ | 堀本教授     |
| ⑧ | 浅野(雅)准教授 |
| ⑨ | 宮崎講師     |
| ⑩ | 上野教授     |

## 「長期履修制度」について

### 【趣旨】

長期履修制度の導入により、学生の学習機会の選択肢の拡充、また経済的負担の軽減により入学者の確保を促進するとともに、大学院の充実と活性化を図る。

### 【概要】

#### (1) 対象者及び導入年度等

##### ①対象者

職業等を有している等の事情により、標準修業年限では教育課程の履修が困難な者。

\*現職等を有している等の事情

有職者（正規職員以外も含み、主としてその収入で生計を立てている者）、出産、育児、介護、その他のやむを得ない事情により、フルタイム学生としての修学が困難な事情にあることをいう。

##### ②導入年度

平成21年度入学生から導入、適用する。

#### (2) 長期履修期間及び在学可能期間

|                        | 標準修業年限 | 長期履修期間 | 在学可能期間         |
|------------------------|--------|--------|----------------|
| 修士課程(博士前期課程)           | 2年     | 3年又は4年 | 4年(標準修業年限2年×2) |
| 博士後期課程                 | 3年     | 4年から6年 | 6年(標準修業年限3年×2) |
| 薬学研究科博士課程<br>歯学研究科博士課程 | 4年     | 5年から8年 | 8年(標準修業年限4年×2) |

\*在学可能期間を超えて在学することはできない(学則の定めにより除籍となる。)

#### (3) 長期履修の認定

長期履修の認定は、当該研究科委員会の議を経て、研究科長が行う。

(短縮、延長、取り止めの申請があった場合についても同様。)

#### (4) 長期履修学生の授業料の取扱い

①当該研究科の授業料年額に標準修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期履修期間の年数で除した額(その額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げる。)とする。

<  $\text{授業料年額} = \text{学則で定める授業料年額} \times \text{標準修業年限} \div \text{許可された長期履修期間の年数}$  >

②長期履修学生が、履修期間の変更(短縮又は延長)を認められた場合の授業料の年額は、当該研究科の授業料の年額に標準修業年限を乗じて得た額からすでに納入した授業料の総額を控除して得た額を変更後の履修期間の年数で除して得た額(その額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げる。)とする。

<  $\text{授業料年額} = (\text{当該研究科の授業料年額} \times \text{標準修業年限} - \text{すでに納入した授業料の総額}) \div \text{変更後の長期履修期間の年数}$  >

〔授業料の算定例〕

＜例 1 : (4) —①の場合＞

薬学研究科修士課程の学生の標準修業年限は2年であるが、長期履修学生制度により、許可された修業年限が3年の場合の授業料年額

$$800,000 \text{ 円} \times 2 \text{ 年} \div 3 \text{ 年} = 533,333 \text{ 円} \Rightarrow \underline{533,340 \text{ 円}} \text{ (10 円未満切り上げ)}$$

| 区 分    | 各年度の授業料納入額 |           |           | 修了までの授業料総額  |
|--------|------------|-----------|-----------|-------------|
|        | 1年目        | 2年目       | 3年目       |             |
| 一般学生   | 800,000 円  | 800,000 円 |           | 1,600,000 円 |
| 長期履修学生 | 533,340 円  | 533,340 円 | 533,340 円 | 1,600,020 円 |

＜例 2 : (4) —②の場合＞

ア) 履修期間を短縮した場合

薬学研究科修士課程の学生の標準修業年限は2年であるが、1年目を終えて当初予定の長期履修期間4年を3年に短縮した場合

|     | 各年度の授業料納入額 |           |           |           | 修了までの授業料総額  |
|-----|------------|-----------|-----------|-----------|-------------|
|     | 1年目        | 2年目       | 3年目       | 4年目       |             |
| (A) | 400,000 円  | 400,000 円 | 400,000 円 | 400,000 円 | 1,600,000 円 |
| (B) | 400,000 円  | 600,000 円 | 600,000 円 | —         | 1,600,000 円 |

\* (A)・・・当初の4年の場合の授業料

(B)・・・当初4年の長期履修期間を、1年目を終えて3年に変更した場合の授業料

イ) 履修期間を延長した場合

薬学研究科博士課程の学生の標準修業年限は4年であるが、5年目を終えて当初予定の長期履修期間6年を7年に延長した場合

|     | 各年度の授業料納入額 |           |           |           |           |           |           | 修了までの授業料総額  |
|-----|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------------|
|     | 1年目        | 2年目       | 3年目       | 4年目       | 5年目       | 6年目       | 7年目       |             |
| (A) | 500,000 円  | 500,000 円 | 500,000 円 | 500,000 円 | 500,000 円 | 500,000 円 | —         | 3,000,000 円 |
| (B) | 500,000 円  | 500,000 円 | 500,000 円 | 500,000 円 | 500,000 円 | 250,000 円 | 250,000 円 | 3,000,000 円 |

\* (A)・・・当初の6年の場合の授業料

(B)・・・当初6年の長期履修期間を、5年目を終えて7年に変更した場合の授業料

### 入学から修了までのスケジュール

| 時期  | 1年次   | 2年次  |
|-----|---|--|
| 4月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・入学時ガイダンス</li> <li>・研究分野、研究指導教員決定</li> <li>・前期授業開始</li> <li>・履修科目決定</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・前期授業開始</li> <li>・履修科目決定</li> </ul> |
| 5月  |   |  |
| 6月  |   |  |
| 7月  |   |  |
| 8月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・単位認定試験</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中間報告会</li> <li>・単位認定試験</li> </ul>  |
| 9月  |   |  |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・後期授業開始</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・後期授業開始</li> </ul>                  |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究構想発表会</li> </ul>  |  |
| 12月 |   |  |
| 1月  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文提出</li> </ul>                  |
| 2月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文計画書提出</li> <li>・単位認定試験</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文審査</li> <li>・単位認定試験</li> </ul> |
| 3月  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・修士論文計画書審査</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・公開最終発表会</li> <li>・学位授与式</li> </ul> |

## 序言

近年における人を対象とした様々な研究の進展にともない、研究における倫理的、法的、社会的問題（Ethical, Legal, Social Issues）への対処が求められている。一部の研究については国あるいは学会による指針の策定が行われてきたが、人を対象とした研究を行う大学、研究機関等においては、従来から自主的な機関内倫理審査委員会が設置され、同委員会において研究の科学的正当性及び倫理的妥当性について検討されてきた。

機関内倫理審査委員会は、大学、研究機関等における自主的な委員会であり、その活動の自主性は尊重されるべきである。また、社会から信頼を得つつ研究を行うためには、機関内倫理審査委員会が、適切な活動を行い、積極的な情報公開を行うことも重要である。

北海道医療大学リハビリテーション学部・リハビリテーション科学研究科研究倫理指針（以下「本指針」と呼ぶ）は、ヘルシンキ宣言（1964年採択、2000年エジンバラ修正）の精神に基づき、北海道医療大学リハビリテーション学部・リハビリテーション科学研究科の教員、その指導下にある大学院生、研究生、および学部学生等（以下本指針では「研究者」と総称する）が、人を対象として行う研究（実験、測定、調査等）において特に留意する事項を示す。

（研究の基本原則および実施上の配慮）

第1条 人を対象とする研究は、科学的合理性、実施可能性、社会的妥当性および倫理性が認められるものでなければならない。この基本原則を達成するため、研究者は、研究の実施にあたって、以下の事項について配慮するものとする。

- （1） 研究対象者（「候補者」を含む。以下同様）の人権擁護、プライバシーの保護
- （2） 研究対象者に対する十分な情報の提供・開示と、インフォームド・コンセント
- （3） 研究対象者および研究者本人を含めた人の安全性の確保
- （4） 社会的、倫理的問題への配慮

（人権擁護とプライバシーの保護）

第2条 研究者は、研究を行う過程で得られた個人情報について、研究対象者の人権擁護、およびプライバシーを保護する義務を有し、そのために必要とされる研究資料の管理責任および事故が生じた場合の責任を有する。

（情報の提供・開示と、インフォームド・コンセント）

第3条 研究者は、あらかじめ研究対象者に、以下に示す事項を文書により説明し、原則として文書により署名・同意を得た上で研究を行うものとする。

- （1） 人権擁護とプライバシーの保護
- （2） 研究の目的
- （3） 研究の方法
- （4） 予期される危険性
- （5） 研究成果の公表
- （6） 研究への協力に不同意の場合でも不利益を受けないこと。
- （7） その他当該研究において必要とされる事項

2 研究対象者は、研究への協力に同意した場合でも随時これを撤回することができる。

3 研究対象者の意思決定能力に疑義がある場合は、研究対象者の利益をもっとも代表すると思われる代理人等に対して説明を行い、同意を得なければならない。

（人の安全性の確保）

第4条 研究者は、研究対象者と研究者を含めて、人の安全の確保に努めなければならない。

2 研究者は、研究対象者に侵襲を与える研究においては、医師の立ち会い、あるいは助言のもとに研究を行うものとし、緊急時に備えた体制を確立しておくこととする。

(社会的、倫理的問題への配慮)

第5条 研究者は、研究の実施にあたって、社会的、倫理的妥当性に配慮するとともに、研究に使用する資料等に研究者名を明記し、責任の所在を明らかにする。

(適用範囲)

第6条 本指針は、北海道医療大学リハビリテーション科学部ならびにリハビリテーション科学研究科の研究者が行う人を対象としたすべての研究に適用される。

(倫理委員会の設置)

第7条 本指針の運用にあたり、北海道医療大学リハビリテーション科学部・リハビリテーション科学研究科に北海道医療大学リハビリテーション科学部・リハビリテーション科学研究科倫理委員会を設置する。

2 北海道医療大学リハビリテーション科学部・リハビリテーション科学研究科倫理委員会の内規は別に定める。

(倫理委員会の承認)

第8条 人を対象とする研究等を実施する場合は、事前に、北海道医療大学リハビリテーション科学部・リハビリテーション科学研究科倫理委員会の承認を得ることを原則とし、その決定は厳正に尊重されなければならない。



専門科目図書100冊リストアップ

理学療法選書

| No. | 書名   | 編著者            | 出版社  | 刊年   | 価格(税込) | 版     |
|-----|--|----------------|------|------|--------|-------|
| 1   | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学                     | 奈良 勲           | 医学書院 | 2012 | 4,200  | 初版    |
| 2   | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学                     | 奈良 勲           | 医学書院 | 2010 | 5,040  | 第3版   |
| 3   | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学                    | 奈良 勲           | 医学書院 | 2010 | 3,696  | 第3版   |
| 4   | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達                    | 奈良 勲           | 医学書院 | 2010 | 4,368  | 初版    |
| 5   | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科                    | 奈良 勲           | 医学書院 | 2010 | 2,940  | 第3版   |
| 6   | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学                     | 奈良 勲           | 医学書院 | 2009 | 3,780  | 第3版   |
| 7   | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科                    | 奈良 勲           | 医学書院 | 2009 | 4,704  | 第3版   |
| 8   | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学                     | 奈良 勲           | 医学書院 | 2009 | 3,864  | 第3版   |
| 9   | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学                    | 奈良 勲           | 医学書院 | 2009 | 3,528  | 第3版   |
| 10  | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学                     | 奈良 勲           | 医学書院 | 2007 | 3,528  | 第3版   |
| 11  | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学                     | 奈良 勲           | 医学書院 | 2004 | 5,040  | 第2版   |
| 12  | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理                    | 奈良 勲           | 医学書院 | 2001 | 2,520  | 初版    |
| 13  | シンプル理学療法学シリーズ 運動器障害理学療法学テキスト                 | 細田多穂           | 南江堂  | 2011 | 3,780  | 初版    |
| 14  | シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト                      | 細田多穂           | 南江堂  | 2009 | 4,032  | 初版    |
| 15  | シンプル理学療法学シリーズ 理学療法入門テキスト                     | 細田多穂           | 南江堂  | 2007 | 3,192  | 初版    |
| 16  | シンプル理学療法学シリーズ 内部障害理学療法学テキスト                  | 細田多穂           | 南江堂  | 2012 | 4,032  | 改訂第2版 |
| 17  | シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト                    | 細田多穂           | 南江堂  | 2011 | 3,528  | 初版    |
| 18  | シンプル理学療法学シリーズ 運動療法学テキスト                      | 細田多穂           | 南江堂  | 2010 | 4,032  | 初版    |
| 19  | シンプル理学療法学シリーズ 理学療法評価学テキスト                    | 細田多穂           | 南江堂  | 2010 | 4,788  | 初版    |
| 20  | シンプル理学療法学シリーズ 小児理学療法学テキスト                    | 細田多穂           | 南江堂  | 2010 | 3,528  | 初版    |
| 21  | シンプル理学療法学シリーズ 運動学テキスト                        | 細田多穂           | 南江堂  | 2010 | 4,032  | 初版    |
| 22  | シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト                      | 細田多穂           | 南江堂  | 2008 | 3,780  | 初版    |
| 23  | シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト               | 細田多穂           | 南江堂  | 2008 | 3,528  | 初版    |
| 24  | シンプル理学療法学シリーズ 中枢神経障害理学療法学テキスト                | 細田多穂           | 南江堂  | 2008 | 4,032  | 初版    |
| 25  | 標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学                         | 奈良 勲           | 医学書院 | 2012 | 3,948  | 第3版   |
| 26  | 標準理学療法学 専門分野 理学療法 臨床実習とケーススタディ               | 奈良 勲           | 医学書院 | 2011 | 3,948  | 第2版   |
| 27  | 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 各論                        | 奈良 勲           | 医学書院 | 2010 | 4,872  | 第3版   |
| 28  | 標準理学療法学 専門分野 運動療法学 総論                        | 奈良 勲           | 医学書院 | 2010 | 3,948  | 第3版   |
| 29  | 標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境                    | 奈良 勲           | 医学書院 | 2009 | 4,536  | 第3版   |
| 30  | 標準理学療法学 専門分野 物理療法学                           | 奈良 勲           | 医学書院 | 2008 | 3,948  | 第3版   |
| 31  | 標準理学療法学 専門分野 基礎理学療法学                         | 奈良 勲           | 医学書院 | 2006 | 4,872  | 初版    |
| 32  | 標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法                         | 奈良 勲           | 医学書院 | 2006 | 3,948  | 第2版   |
| 33  | 標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学                         | 奈良 勲           | 医学書院 | 2004 | 4,872  | 第2版   |
| 34  | 標準理学療法学 専門分野 臨床動作分析                          | 奈良 勲           | 医学書院 | 2001 | 3,948  | 初版    |
| 35  | 理学療法MOOK 1 脳損傷の理学療法1【第2版】 超早期から急性期のリハビリテーション | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正 | 三輪書店 | 2005 | 2,772  | 第2版   |
| 36  | 理学療法MOOK 2 脳損傷の理学療法2【第2版】 回復期から維持期のリハビリテーション | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正 | 三輪書店 | 2005 | 2,772  | 第2版   |
| 37  | 理学療法MOOK 3 疼痛の理学療法【第2版】 慢性痛の理解とエビデンス         | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正 | 三輪書店 | 2008 | 3,528  | 第2版   |
| 38  | 理学療法MOOK 4 呼吸理学療法 第2版                        | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正 | 三輪書店 | 2009 | 4,032  | 第2版   |
| 39  | 理学療法MOOK 5 物理療法                              | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正 | 三輪書店 | 2000 | 3,192  | 初版    |
| 40  | 理学療法MOOK 6 運動分析                              | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正 | 三輪書店 | 2000 | 2,772  | 初版    |
| 41  | 理学療法MOOK 7 義肢装具                              | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正 | 三輪書店 | 2000 | 3,192  | 初版    |
| 42  | 理学療法MOOK 8 下肢関節疾患の理学療法                       | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正 | 三輪書店 | 2001 | 3,192  | 初版    |
| 43  | 理学療法MOOK 9 スポーツ傷害の理学療法 第2版                   | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正 | 三輪書店 | 2009 | 3,864  | 第2版   |
| 44  | 理学療法MOOK 10 高齢者の理学療法 第2版                     | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正 | 三輪書店 | 2011 | 3,192  | 第2版   |
| 45  | 理学療法MOOK 11 健康増進と介護予防 増補版                    | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正 | 三輪書店 | 2009 | 3,360  | 増補版   |
| 46  | 理学療法MOOK 12 循環器疾患のリハビリテーション                  | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正 | 三輪書店 | 2005 | 3,528  | 初版    |

専門科目図書100冊リストアップ

|    |  |   |            |      |        |       |
|----|--|---|------------|------|--------|-------|
| 47 | 理学療法MOOK 13 QOLと理学療法 患者満足度をいかに高めるか     | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正  | 三輪書店       | 2006 | 3,360  | 初版    |
| 48 | 理学療法MOOK 14 腰痛の理学療法                    | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正  | 三輪書店       | 2008 | 3,528  | 初版    |
| 49 | 理学療法MOOK 15 子どもの理学療法                   | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正  | 三輪書店       | 2008 | 3,528  | 初版    |
| 50 | 理学療法MOOK 16 脳科学と理学療法                   | 黒川幸雄/高橋正明/鶴見隆正  | 三輪書店       | 2009 | 3,528  | 初版    |
| 51 | 理学療法のとらえかた                             | 奈良 勲  | 文光堂        | 2001 | 4,032  | 初版    |
| 52 | 理学療法のとらえかた PART 2                      | 奈良 勲  | 文光堂        | 2003 | 4,032  | 初版    |
| 53 | 理学療法のとらえかた PART 3                      | 奈良 勲  | 文光堂        | 2005 | 4,200  | 初版    |
| 54 | 理学療法のとらえかた PART 4                      | 奈良 勲  | 文光堂        | 2007 | 5,040  | 初版    |
| 55 | 理学療法ハンドブック 改訂第4版 第1巻 理学療法の基礎と評価        | 細田多穂/柳澤健  | 協同医書出版社    | 2010 | 18,480 | 改訂第4版 |
| 56 | 理学療法ハンドブック 改訂第4版 第2巻 治療アプローチ           | 細田多穂/柳澤健  | 協同医書出版社    | 2010 |        | 改訂第4版 |
| 57 | 理学療法ハンドブック 改訂第4版 第3巻 疾患別・理学療法基本プログラム   | 細田多穂/柳澤健  | 協同医書出版社    | 2010 |        | 改訂第4版 |
| 58 | 理学療法ハンドブック 改訂第4版 第4巻 疾患別・理学療法の臨床思考     | 細田多穂/柳澤健  | 協同医書出版社    | 2010 |        | 改訂第4版 |
| 59 | 運動器障害理学療法学 I 15レクチャーシリーズ理学療法テキスト       | 河村廣幸  | 中山書店       | 2011 | 2,016  | 初版    |
| 60 | 運動器障害理学療法学 II 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト     | 河村廣幸  | 中山書店       | 2011 | 2,016  | 初版    |
| 61 | 神経障害理学療法学 I 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト       | 大畑光司/玉木彰  | 中山書店       | 2011 | 2,016  | 初版    |
| 62 | 神経障害理学療法学 II 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト      | 大畑光司/玉木彰  | 中山書店       | 2012 | 2,016  | 初版    |
| 63 | 内部障害理学療法学 呼吸 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト      | 石川 朗/玉木彰  | 中山書店       | 2010 | 2,016  | 初版    |
| 64 | 内部障害理学療法学 循環・代謝 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト   | 木村雅彦  | 中山書店       | 2010 | 2,016  | 初版    |
| 65 | 義肢学 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト               | 永富史子  | 中山書店       | 2011 | 2,016  | 初版    |
| 66 | 装具学 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト               | 石川 朗/佐竹将宏   | 中山書店       | 2011 | 2,016  | 初版    |
| 67 | 理学療法概論                                 | 奈良 勲  | 医歯薬出版株式会社  | 2007 | 4,956  | 第5版   |
| 68 | 概説理学療法                                 | 嶋田智明  | 文光堂        | 2007 | 4,200  | 初版    |
| 69 | ビジュアルレクチャーシリーズ基礎理学療法学                  | 大橋ゆかり   | 医歯薬出版株式会社  | 2012 | 2,352  | 初版    |
| 70 | 図解理学療法技術ガイド                            | 石川齊他  | 文光堂        | 2007 | 7,140  | 第3版   |
| 71 | アドバンス版 図解理学療法技術ガイド                     | 細田多穂  | 文光堂        | 2005 | 8,400  | 初版    |
| 72 | 理学療法士プロフェッショナル・ガイド 臨床の現場で役立つマネジメントのすべて | 細田多穂  | 文光堂        | 2003 | 5,460  | 初版    |
| 73 | 科学的根拠に基づく理学療法 理論を実践に生かすヒント             | Kathryn Refsha<br>uge, Louise Ad<br>a, Elizabeth Elli | エルゼビア・ジャパン | 2008 | 4,368  | 初版    |
| 74 | 理学療法学事典                                | 奈良 勲  | 医学書院       | 2006 | 7,560  | 初版    |
| 75 | 理学療法の本質を問う                             | 奈良 勲  | 医学書院       | 2002 | 1,596  | 初版    |
| 76 | リハビリテーションにおける評価法ハンドブック                 | 赤居正美  | 医歯薬出版      | 2009 | 4,032  | 初版    |
| 77 | 障害と活動の測定・評価ハンドブック                      | 岩谷力   | 南江堂        | 2005 | 4,620  | 初版    |
| 78 | リハビリテーション評価ガイドブック                      | 望月 久  | NAP        | 2004 | 3,192  | 初版    |
| 79 | 考える理学療法 評価から治療手技の選択                    | 丸山仁司  | 文光堂        | 2004 | 4,620  | 初版    |
| 80 | 考える理学療法 評価から治療手技の選択[中枢神経疾患編]           | 丸山仁司  | 文光堂        | 2006 | 4,788  | 初版    |
| 81 | 考える理学療法 評価から治療手技の選択[内部障害編]             | 丸山仁司  | 文光堂        | 2008 | 5,460  | 初版    |
| 82 | 神経筋骨格系の検査と評価                           | 中山孝   | 医歯薬出版株式会社  | 2010 | 5,712  | 初版    |
| 83 | カラー写真で学ぶ運動器疾患のみかたと保存的治療                | 竹内義享・田口大輔   | 医歯薬出版株式会社  | 2008 | 3,192  | 初版    |
| 84 | カラー写真で学ぶ四肢関節の触診法                       | 竹内義享・大橋淳・上村英記   | 医歯薬出版株式会社  | 2007 | 3,192  | 初版    |
| 85 | 関節可動域・筋長検査法                            | 奈良勲   | 医歯薬出版株式会社  | 2005 | 6,216  | 初版    |
| 86 | 筋力                                     | 奈良勲・岡西哲夫  | 医歯薬出版株式会社  | 2004 | 3,864  | 初版    |
| 87 | 筋・感覚検査法                                | 奈良勲   | 医歯薬出版株式会社  | 2001 | 5,712  | 初版    |

専門科目図書100冊リストアップ

|     |   |  |                               |      |        |                                     |
|-----|---|--|-------------------------------|------|--------|-------------------------------------|
| 88  | 関節可動域測定法  | 木村哲彦                                       | 協同医書出版社                       | 2002 | 3,360  | 改訂第2版                               |
| 89  | 臨床評価指標入門  | 内山 靖, 小林武, 潮見泰藏                            | 協同医書出版社                       | 2003 | 4,620  | 初版                                  |
| 90  | 臨床判断学入門   | 内山 靖, 小林武, 前田眞治                            | 協同医書出版社                       | 2006 | 3,528  | 初版                                  |
| 91  | 新・徒手筋力検査法   | 津山直一, 中村耕三                                 | 協同医書出版社                       | 2008 | 6,300  | 原著第8版                               |
| 92  | 理学療法評価学   | 松澤 正                                       | 金原出版株式会社                      | 2011 | 5,208  | 改訂第3版<br>版                          |
| 93  | 誰でもわかる動作分析II  | 村井貞夫                                       | 南江堂                           | 2010 | 1,932  | 初版                                  |
| 94  | 目でみる運動機能検査法   | 竹内義享/澤田規                                   | 南江堂                           | 2005 | 4,620  | 初版                                  |
| 95  | 理学療法士のための6ステップ式臨床動作分析マニュアル  | 黒川幸雄ほか                                     | 文光堂                           | 2010 | 4,368  | 第2版                                 |
| 96  | アクティブIDストレッチング  | 鈴木重行                                       | 三輪書店                          | 2007 | 3,780  | 初版                                  |
| 97  | IDストレッチング   | 鈴木重行                                       | 三輪書店                          | 2006 | 3,780  | 第2版                                 |
| 98  | ID触診術 Individual Muscle Palpation   | 鈴木重行                                       | 三輪書店                          | 2005 | 5,040  | 初版                                  |
| 99  | 筋骨格系検査法   | 石川齊・嶋田智明                                   | 医歯薬出版株式会社                     | 2011 | 6,048  | 原著第3版                               |
| 100 | Brunnstrom's Clinical Kinesiology   | Peggy A., Ph.D. Hougum, Dolores B. Bertoti | F a Davis Co                  | 2011 | 7,751  | 6版                                  |
| 101 | Gait Analysis: Normal and Pathological Function   | Jacquelin Perry, Judith Burnfield          | Slack Inc                     | 2010 | 8,685  | 2版                                  |
| 102 | Human Walking   | Jessica Rose, James G. Gamble              | Lippincott Williams & Wilkins | 2005 | 9,773  | 3版                                  |
| 103 | Kinesiology of the Musculoskeletal System: Foundations for Rehabilitation   | Donald A. Neumann                          | Mosby                         | 2009 | 7,904  | 2版                                  |
| 104 | Kinesiology: The Mechanics and Pathomechanics of Human Movement   | Carol A. Oatis                             | Lippincott Williams & Wilkins | 2008 | 8,403  | 2版                                  |
| 105 | Joint Structure And Function: A Comprehensive Analysis  | Pamela K. Levangie, Cynthia C. Norkin      | F a Davis Co                  | 2011 | 7,657  | 5版                                  |
| 106 | Muscles: Testing and Function, with Posture and Pain, International Edition: Includes a Bonus Primal Anatomy CD-ROM | Florence Peterson Kendall                  | Lippincott Williams & Wilkins | 2010 | 7,056  | 5版                                  |
| 107 | Anatomy and Human Movement: Structure and function with PAGEBURST Access  | Nigel Palastanga                           | Churchill Livingstone         | 2011 | 6,875  | 6版                                  |
| 108 | Clinical Kinesiology and Anatomy  | Lynn S. Lippert                            | F a Davis Co                  | 2010 | 4,386  | 5版                                  |
| 109 | Functional Anatomy: Musculoskeletal Anatomy, Kinesiology, and Palpation for Manual Therapists                       | Christy Cael                               | Lippincott Williams & Wilkins | 2011 | 5,201  | Revised and Updated Version edition |
| 110 | Exercise Physiology, International Edition: Nutrition, Energy, and Human Performance                                | William D. McArdle                         | Lippincott Williams & Wilkins | 2009 | 6,045  | 7版                                  |
| 111 | ACSM's Advanced Exercise Physiology   | American College of Sports of Medicine     | Lippincott Williams & Wilkins | 2011 | 10,686 | 2版                                  |
| 112 | Laboratory Manual for Exercise Physiology   | G. Gregory Haff                            | Human Kinetics                | 2012 | 6,688  | 初版                                  |
| 113 | Essentials of Exercise Physiology, International Edition  | William D. McArdle                         | Lippincott Williams & Wilkins | 2010 | 4,990  | 4版                                  |
| 114 | Biomechanics and Motor Control of Human Movement.   | Winter, David A.                           | Wiley                         | 2009 | 11,481 | 4版                                  |
| 115 | Motor Control   | Shumway-Cook & M.H. Woolacott              | Lippincott Williams & Wilkins | 2012 | 6,174  | 4版                                  |
| 116 | Physical Medicine & Rehabilitation  | R.L. Braddom, L. Chan, M.A.                | W B Saunders Co               | 2011 | 24,993 | 4版                                  |
| 117 | Basic Biomechanics of the Musculoskeletal System  | M. Nordin & .V.H. Frankel                  | Lippincott Williams & Wilkins | 2012 | 5,872  | 4版                                  |
| 118 | ANATOMY, REGIONAL ATLAS OF THE HUMAN BODY (CLEMENTE)  | Carmine D. Clemente PhD                    | Lippincott Williams & Wilkins | 2010 | 6,652  | 6版                                  |

専門科目図書100冊リストアップ

|     |  |   |                     |      |       |         |
|-----|--|---|---------------------|------|-------|---------|
| 119 | Principles of Neural Science.                    | Eric R. Kandel /<br>James H.<br>Schwartz /<br>Thomas M. | Appleton &<br>Lange | 2000 | 4,952 | 4th ed. |
| 120 | Therapeutic Exercise: Foundations and Techniques | Carol Kisner  | F a Davis Co        | 2007 | 6,816 | 5版      |

563,840

専門科目図書100冊リストアップ

作業療法選書

| No. | 書名                                    | 編著者                          | 出版社     | 刊年   | 価格(税込) | 版    |
|-----|---------------------------------------|------------------------------|---------|------|--------|------|
| 1   | 作業療法学全書 作業療法概論                        | 日本作業療法士協会                    | 協同医書出版社 | 2010 | 2,856  | 改訂3版 |
| 2   | 作業療法学全書 基礎作業学                         |                              |         | 2009 | 2,688  | 改訂3版 |
| 3   | 作業療法学全書 作業療法評価学                       |                              |         | 2009 | 3,192  | 改訂3版 |
| 4   | 作業療法学全書 身体障害                          |                              |         | 2008 | 3,192  | 改訂3版 |
| 5   | 作業療法学全書 精神障害                          |                              |         | 2010 | 3,192  | 改訂3版 |
| 6   | 作業療法学全書 発達障害                          |                              |         | 2010 | 2,688  | 改訂3版 |
| 7   | 作業療法学全書 老年期                           |                              |         | 2008 | 2,352  | 改訂3版 |
| 8   | 作業療法学全書 高次脳機能障害                       |                              |         | 2011 | 2,688  | 改訂3版 |
| 9   | 作業療法学全書 義肢装具学                         |                              |         | 2009 | 2,688  | 改訂3版 |
| 10  | 作業療法学全書 福祉用具の使い方、住環境整備                |                              |         | 2009 | 2,520  | 改訂3版 |
| 11  | 作業療法学全書 日常生活活動                        |                              |         | 2009 | 3,024  | 改訂3版 |
| 12  | 作業療法学全書 職業関連活動                        |                              |         | 2009 | 2,520  | 改訂3版 |
| 13  | 作業療法学全書 地域作業療法学                       |                              |         | 2009 | 2,688  | 改訂3版 |
| 14  | 標準作業療法学専門分野 基礎作業学                     | 矢谷令子シリーズ<br>監修               | 医学書院    | 2012 | 3,192  | 第2版  |
| 15  | 標準作業療法学専門分野 高次脳機能作業療法学                |                              |         | 2012 | 3,192  | 初版   |
| 16  | 標準作業療法学専門分野 身体機能作業療法学                 |                              |         | 2011 | 3,948  | 第2版  |
| 17  | 標準作業療法学専門分野 作業療法評価学                   |                              |         | 2011 | 4,872  | 第2版  |
| 18  | 標準作業療法学専門分野 精神機能作業療法学                 |                              |         | 2008 | 3,192  | 初版   |
| 19  | 標準作業療法学専門分野 発達過程作業療法学                 |                              |         | 2006 | 3,360  | 初版   |
| 20  | 標準作業療法学専門分野 地域作業療法学                   |                              |         | 2012 | 3,192  | 第2版  |
| 21  | 標準作業療法学専門分野 作業療法 臨床実習とケーススタディ         |                              |         | 2011 | 3,528  | 第2版  |
| 22  | 標準作業療法学専門分野 作業療法学概論                   |                              |         | 2011 | 3,192  | 第2版  |
| 23  | 標準作業療法学専門分野 高齢期作業療法学                  |                              |         | 2010 | 3,192  | 第2版  |
| 24  | 標準作業療法学専門分野 社会生活行為学                   |                              |         | 2007 | 3,948  | 初版   |
| 25  | 標準作業療法学専門分野 作業療法研究法                   | 2005                         | 3,192   | 初版   |        |      |
| 26  | 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト1 作業療法学概論          | 栗原トヨ子<br>浅沼辰志<br>佐竹勝<br>長崎重信 | メジカルビュー | 2012 | 3,528  | 初版   |
| 27  | 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト2 作業学              |                              |         | 2010 | 3,948  | 初版   |
| 28  | 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト3 作業療法評価学          |                              |         | 2012 | 4,704  | 初版   |
| 29  | 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト4 身体障害作業療法学        |                              |         | 2010 | 4,536  | 初版   |
| 30  | 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト6 精神障害作業療法学        |                              |         | 2010 | 3,528  | 初版   |
| 31  | 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト7 発達障害作業療法学        |                              |         | 2011 | 3,864  | 初版   |
| 32  | 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト8 日常生活活動(ADL)・福祉用具 |                              |         | 2012 | 3,528  | 初版   |
| 33  | 作業療法学ゴールド・マスター・テキスト9 地域作業療法学・老年期作業療法学 | 2011                         | 3,528   | 初版   |        |      |
| 34  | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 運動学              | シリーズ監修<br>奈良勲                | 医学書院    | 2012 | 4,200  | 初版   |
| 35  | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学              |                              |         | 2010 | 5,040  | 第3版  |
| 36  | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学             |                              |         | 2010 | 3,696  | 第3版  |
| 37  | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 人間発達             |                              |         | 2010 | 4,368  | 初版   |
| 38  | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科             |                              |         | 2010 | 2,940  | 第3版  |
| 39  | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学              |                              |         | 2009 | 3,780  | 第3版  |
| 40  | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科             |                              |         | 2009 | 4,704  | 第3版  |
| 41  | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学              |                              |         | 2009 | 3,864  | 第3版  |
| 42  | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学             |                              |         | 2009 | 3,528  | 第3版  |
| 43  | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学              |                              |         | 2007 | 3,528  | 第3版  |
| 44  | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学              |                              |         | 2004 | 5,040  | 第2版  |
| 45  | 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 臨床心理学            |                              |         | 2001 | 2,520  | 初版   |
| 46  | 作業療法ルネッサンスひとと生活障害1 食べることの障害とアプローチ     | 山根寛                          | 三輪書店    | 2002 | 2,352  | 初版   |
| 47  | 作業療法ルネッサンスひとと生活障害2 移るものの障害とアプローチ      |                              |         | 2004 | 2,352  | 初版   |
| 48  | 作業療法ルネッサンスひとと生活障害3 着る・装うことの障害とアプローチ   |                              |         | 2006 | 2,352  | 初版   |
| 49  | 作業療法ルネッサンスひとと生活障害4 伝えることの障害とアプローチ     |                              |         | 2006 | 2,352  | 初版   |
| 50  | 作業療法ルネッサンスひとと生活障害5 創る・楽しむことの障害とアプローチ  |                              |         | 2007 | 2,352  | 初版   |
| 51  | クリニカル作業療法シリーズ 発達障害領域の作業療法             | 長谷龍太郎ほか                      | 中央法規出版  | 2011 | 3,360  | 初版   |
| 52  | クリニカル作業療法シリーズ 精神障害領域の作業療法             | 石井良和ほか                       |         | 2010 | 3,696  | 初版   |
| 53  | クリニカル作業療法シリーズ 高齢期障害領域の作業療法            | 山田孝                          |         | 2010 | 3,192  | 初版   |
| 54  | クリニカル作業療法シリーズ 身体障害領域の作業療法             | 大嶋伸雄                         |         | 2010 | 3,864  | 初版   |

専門科目図書100冊リストアップ

|     |   |                          |            |      |       |       |
|-----|---|--------------------------|------------|------|-------|-------|
| 55  | 基礎作業学実習ガイド～作業活動のポイントを学ぶ～                            | 岩瀬 義昭                    | 協同医書出版社    | 2005 | 2,100 | 初版    |
| 56  | 作業療法のとらえかた  | 古川 宏                     | 文光堂        | 2005 | 4,368 | 初版    |
| 57  | 地域に根ざした作業療法～理論と実践～                                  | Marjorie E. Scaffa       | 協同医書出版社    | 2005 | 4,620 | 初版    |
| 58  | 作業療法の世界～作業療法を知りたい・考えたい人のために                         | 鎌倉 矩子                    | 三輪書店       | 2004 | 2,772 | 第2版   |
| 59  | 「クライアント中心」作業療法の実践～多様な集団への展開～                        | Thelma Sumsion           | 協同医書出版社    | 2001 | 3,192 | 初版    |
| 60  | クライアント中心の作業療法～カナダ作業療法の展開～                           | Mary Law                 | 協同医書出版社    | 2000 | 3,192 | 初版    |
| 61  | スウェーデンの作業療法士～大変なんです、でも最高に面白いんです～                    | 河本 佳子                    | 新評論        | 2000 | 1,680 | 初版    |
| 62  | 人間作業モデル～理論と応用                                       | Gary Kielhofner          | 協同医書出版社    | 2007 | 7,140 | 改訂第3版 |
| 63  | ひとと集団・場～ひとの集まりと場を利用する                               | 鎌倉 矩子                    | 三輪書店       | 2007 | 2,772 | 第2版   |
| 64  | COPM～カナダ作業遂行測定～                                     | Mary Law                 | 大学教育出版     | 2007 | 1,512 | 原著第4版 |
| 65  | 作業療法がわかるCOPM・AMPSスターティングガイド                         | 吉川 ひろみ                   | 医学書院       | 2008 | 3,192 | 初版    |
| 66  | 作業療法のとらえかた PART2                                    | 古川 宏                     | 文光堂        | 2008 | 4,620 | 初版    |
| 67  | 作業療法の理論   | 山田孝                      | 医学書院       | 2008 | 3,948 | 原著第3版 |
| 68  | アクティビティと作業療法  | アクティビティ研究会               | 三輪書店       | 2010 | 2,856 | 初版    |
| 69  | 続・作業療法の視点～作業を通しての健康と公正～                             | エレザベス・タウンゼント             | 大学教育出版     | 2011 | 3,192 | 初版    |
| 70  | 作業療法の知・技・理  | 山根 寛                     | 金剛出版       | 2011 | 2,856 | 初版    |
| 71  | 作業療法はおもしろい～あるパイオニアOTのオリジナルな半生                       | 勝屋なつみ                    | シービーアール    | 2012 | 1,512 | 初版    |
| 72  | “作業”の捉え方と評価・支援技術～生活行為の自律に向けたマネジメント                  | 日本作業療法士協会                | 医歯薬出版      | 2011 | 1,932 | 初版    |
| 73  | 「作業」って何だろう～作業科学入門                                   | 吉川ひろみ                    | 医歯薬出版      | 2008 | 1,848 | 初版    |
| 74  | ひとと作業・作業活動～ひとにとって作業とは?どのように使うのか?                    | 山根寛                      | 三輪書店       | 2005 | 2,772 | 第2版   |
| 75  | 作業科学～作業的存在としての人間の研究                                 | Ruth Zemke               | 三輪書店       | 1999 | 7,980 | 初版    |
| 76  | 作業療法実践のための6つの理論:理論の形成と発展                            | B.Rosalie Johanna Miller | 協同医書出版社    | 1995 | 2,688 | 初版    |
| 77  | 作業療法ケースブック 作業療法評価のエッセンス                             | 澤俊二                      | 医歯薬出版      | 2010 | 4,368 | 初版    |
| 78  | I・ADL 作業療法の戦略・戦術・技術                                 | 生田 宗博                    | 三輪書店       | 2012 | 4,536 | 第3版   |
| 79  | 高次脳機能障害の作業療法  | 鎌倉矩子                     | 三輪書店       | 2010 | 4,032 | 初版    |
| 80  | 覗いてみたい!?先輩OTの頭の中～精神科OTの醍醐味!                         | 苅山和生                     | 三輪書店       | 2010 | 2,016 | 初版    |
| 81  | 作業療法の面接技術 ストーリーの共有を目指して                             | 香山 明美                    | 三輪書店       | 2009 | 2,688 | 初版    |
| 82  | 働くことの意義と支援  |                          | 三輪書店       | 2009 | 2,856 | 初版    |
| 83  | 新 作業療法の源流   | 秋元波留夫                    | 三輪書店       | 1991 | 3,669 | 初版    |
| 84  | 手と道具の人類史 チンパンジーからサイボーグまで                            | 関 昌家                     | 協同医書出版社    | 2008 | 2,520 | 初版    |
| 85  | 標準 リハビリテーション医学                                      | 上野敏                      | 医学書院       | 2012 | 5,880 | 第3版   |
| 86  | 現代医学概論  | 柳澤信夫                     | 医歯薬出版      | 2012 | 2,520 | 初版    |
| 87  | 学生のためのリハビリテーション医学概論                                 | 栢森良二                     | 医歯薬出版      | 2011 | 2,016 | 初版    |
| 88  | PT・OT・ST・ナースを目指す人のための リハビリテーション総論                   | 椿原彰夫                     | 診断と治療社     | 2011 | 3,024 | 改訂第2版 |
| 89  | リハビリテーション医学テキスト                                     | 三上真弘                     | 南江堂        | 2010 | 4,452 | 改訂第3版 |
| 90  | 現代リハビリテーション医学                                       | 千野直一                     | 金原出版       | 2009 | 7,392 | 改訂第3版 |
| 91  | リハビリテーション序説   | 安藤徳彦                     | 医学書院       | 2009 | 2,856 | 初版    |
| 92  | セラピストのための概説リハビリテーション                                | 嶋田智明                     | 文光堂        | 2009 | 3,360 | 初版    |
| 93  | ICF(国際生活機能分類)の理解と活用～人が「生きること」「生きることの困難(障害)」をどうとらえるか | 上田敏                      | きょうされん     | 2005 | 559   | 初版    |
| 94  | OT臨地実習ルートマップ  | 菊池恵美子                    | メジカルビュー社   | 2011 | 4,200 | 初版    |
| 95  | 作業療法士・理学療法士 臨床実習ガイドブック                              | 京極真ほか                    | 誠信書房       | 2009 | 2,352 | 初版    |
| 96  | PT・OT学生のための 実習を乗り切るらくらく実践術                          | 長野康博                     | 医歯薬出版      | 2010 | 1,512 | 初版    |
| 97  | 臨床実習フィールドガイド  | 石川朗ほか                    | 南江堂        | 2004 | 4,788 | 初版    |
| 98  | メディカルサポートコーチング:医療スタッフのコミュニケーション力+セルフケア力+マネジメント力を伸ばす | 奥田弘美                     | 中央法規出版     | 2012 | 2,016 | 初版    |
| 99  | よりよき医療コミュニケーションを求めて～模擬患者を通して見えてきたもの～                | 前田純子                     | ライフ・サイエンス社 | 2011 | 1,176 | 初版    |
| 100 | よくわかる医療面接と模擬患者                                      | 鈴木富雄                     | 名古屋大学出版会   | 2011 | 1,512 | 初版    |
| 101 | 医療関係者のための信念対立説明アプローチ:コミュニケーション・スキル入門                | 京極真                      | 誠信書房       | 2011 | 2,940 | 初版    |
| 102 | 医療コミュニケーション・ハンドブック                                  | 杉本なおみ                    | 中央法規       | 2008 | 1,680 | 初版    |
| 103 | 医療コミュニケーション 「スキル」を学ぶ前に読む本                           | 岩堀禎廣                     | 薬事日報       | 2008 | 1,680 | 初版    |



専門科目図書100冊リストアップ

|     |   |   |                               |              |       |     |
|-----|---|---|-------------------------------|--------------|-------|-----|
| 104 | 作業療法ケースブック コミュニケーションスキルの磨き方   | 沢俊二                                       | 医歯薬出版                         | 2007         | 3,192 | 初版  |
| 105 | 医療者のためのコミュニケーション入門  | 杉本なおみ                                     | 精神看護出版                        | 2005         | 1,680 | 初版  |
| 106 | コミュニケーション・マナーの基本―福祉と医療に携わる人のための   | 大竹栄ほか                                     | 中央法規                          | 2005         | 1,680 | 初版  |
| 107 | すぐ使える看護・介護職の接遇インストラクター指導者マニュアル  | 高橋啓子                                      | 日総研出版                         | 2003         | 2,520 | 初版  |
| 108 | 医療従事者のための「効果的な文章の書き方」入門   | 園部俊晴                                      | 運動と医学の出版社                     | 2010         | 1,512 | 初版  |
| 109 | 医薬系学生のための文章作成法  | 堤敏彦, 徳永仁                                  | 医療科学社                         | 2006         | 1,680 | 初版  |
| 110 | Conceptual Foundations of Occupational Therapy (Cram101 Textbook Outlines)                      | Gary Kielhofner                           | Academic Internet Publishers  | 2009         | 2,846 | 4th |
| 111 | Occupational Therapy for Physical Dysfunction   | Mary Vining Radomski                      | Lippincott Williams & Wilkins | 2007         | 8,311 | 6th |
| 112 | 1001 Pediatric Treatment Activities: Creative Ideas for Therapy Sessions                        | Ayelet H. Danto                           | Slack Incorporated            | 2011         | 4,573 | 1st |
| 113 | Pedretti's Occupational Therapy: Practice Skills for Physical Dysfunction                       | Heidi McHugh Pendleton                    | Mosby                         | 2011         | 7,819 | 7th |
| 114 | Occupational Therapy in Mental Health: A Vision for Participation                               | Catana Brown                              | F.A. Davis Company            | 2010         | 8,405 | 1st |
| 115 | Clinical and Professional Reasoning in Occupational Therapy                                     | Barbara A                                 | Lippincott Williams & Wilkins | 2007         | 5,845 | 1st |
| 116 | Model of Human Occupation: Theory and Application   | Gary Kielhofner                           | Lippincott Williams & Wilkins | 2007         | 6,941 | 4th |
| 117 | Politics of Occupation-Centred Practice: Reflections on Occupational Engagement Across Cultures | Nick Pollard                              | Wiley-Blackwell               | 2012<br>6月刊行 | 4,081 | 1st |
| 118 | Occupational Therapy and Rehabilitation..., Volume 1  | American Occupational Therapy Association | Naabu Press                   | 2011         | 4,532 | 1st |
| 119 | The Core Concepts of Occupational Therapy: A Dynamic Framework for Practice                     | Jennifer Creek                            | Jessica Kingsley Pub          | 2010         | 3,441 | 1st |
| 120 | Occupational Science: Society, Inclusion, Participation   | Gail E. Whiteford                         | Wiley-Blackwell               | 2012         | 4,506 | 1st |

411,440

|        |      |         |
|--------|------|---------|
| 理学療法選書 | 120冊 | 563,840 |
| 作業療法選書 | 120冊 | 411,440 |
| 合計     | 240冊 | 975,280 |

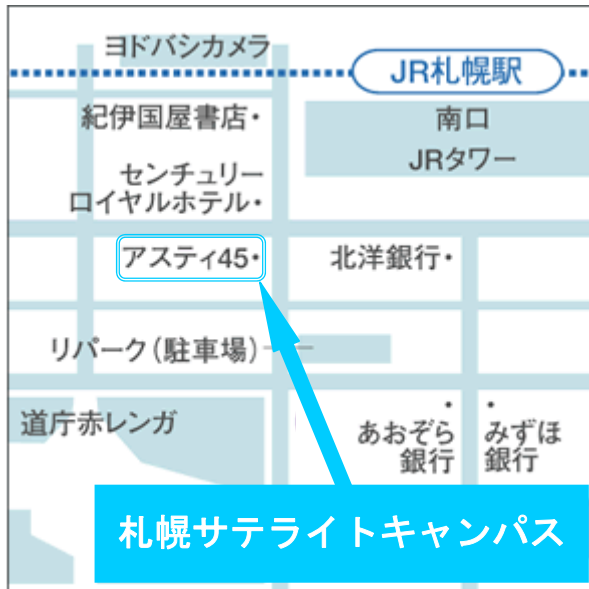
## 札幌サテライトキャンパス

〒060-0003 札幌市中央区北4条西5丁目 アスティ45 12階 (道庁北側)

TEL:011-223-0205 FAX:011-223-0207

JR 札幌駅・地下鉄 南北線/東豊線 さっぽろ駅 徒歩3分

### 【位置図】



### 【配置図】

